

福岡市NPO・ボランティア交流センター
2021年度 事業報告書

指定管理者：「あすみん」マネジメントグループ

2021年度 事業報告書 目次

2021 年度の管理運營業務の実施方針P1
2021 年度のふりかえりP4
A. 管理部門の事業P4
A1. 管理運営体制P5
A2. 施設管理P10
A3. 危機管理・安全対策P15
A4. 個人情報・情報資産の保護P17
A5. 労働環境P19
A6. 人材育成P21
A7. 窓口・サービスP25
B. 情報部門の事業P33
B1. メディアを活用した情報発信事業P34
B2. 施設利用促進事業P40
B3. 市民公益活動の情報発信P45
C. 事業部門の事業P51
C1. 市民公益活動に関する相談P52
C2. 市民公益活動に関する研修及び講座の実施P56
C3. 市民公益活動を推進する交流連携P62
C4. 災害時のボランティア等への活動支援P74
C5. NPO・ボランティア体験事業P77
C6. ライフサイクルを通じた公益力の育成P80
C7. 市民公益活動に関する調査及び研究P85
C8. 自主事業P86

2021 年度の管理運営業務の実施方針

2021 年度の管理運営業務は、年度当初の事業計画の中で設定した「1. 管理運営方針」と「2. コンセプト」に基づき、業務を「A：管理部門」「B：情報部門」「C：事業部門」の3部門に区分し実施しました。

1. 管理運営方針

福岡市 NPO・ボランティア交流センター（以下、「あすみん」）は、施設の管理はもちろん、利用者とのコミュニケーションから行政との調整まで幅広い業務が発生する複雑な現場です。私たちは、「あすみん」を管理運営するにあたり、その基盤となる3つの重点事項を設定し、企業と NPO の共同企業体であることを最大限に活かした管理体制を構築します。

また、「あすみん」マネジメントグループ（以下、当グループ）は、「あすみん」の管理運営にあたって、福岡市市民公益活動推進条例、福岡市 NPO・ボランティア交流センター条例、市民公益活動の推進に係る施策等を理解し、管理運営方針を設定します。

(1) 「あすみん」管理のプロフェッショナル集団の形成

「あすみん」は、市民活動に関わる多様なニーズが集まりますので、安定した運営には、多くのプロフェッショナルが必要となります。これまで私たちは、施設管理のプロ、市民活動のプロ、組織運営のプロ、ボランティアコーディネーションのプロなど、「あすみん」に最適化されたスタッフを育成してきました。次期の運営では、今期に経験を重ねた職員を配置し、スタートから安定した運営を目指すとともに新しい職員にも引き続き育成を進め、ゆるぎない業務体制を提供します。

(2) 「現地」と「本部」がより一体となった管理体制専門スキルと豊富な経験で「共働」を促進します。

指定管理でよく起こる効率を求めた縦割りでの分業体制では、特殊な業務である「あすみん」での安定したサービスの提供は難しくなります。私たちは、現地と本部を結ぶ「本部運営会議」を最高決定機関と位置づけ、双方の立場で議論を交わせる場を定期的に作ることで、多様なニーズに応える施策へと生かします。また、本部との緊密な連携は、現地職員の働き方や職場環境にも良好な条件をもたらします。現地と本部がリアルタイムな情報共有をはかり、運営と経営の両側から、「あすみん」の安定を構築します。

(3) 必要な時に外部との連携が可能な開かれた運営

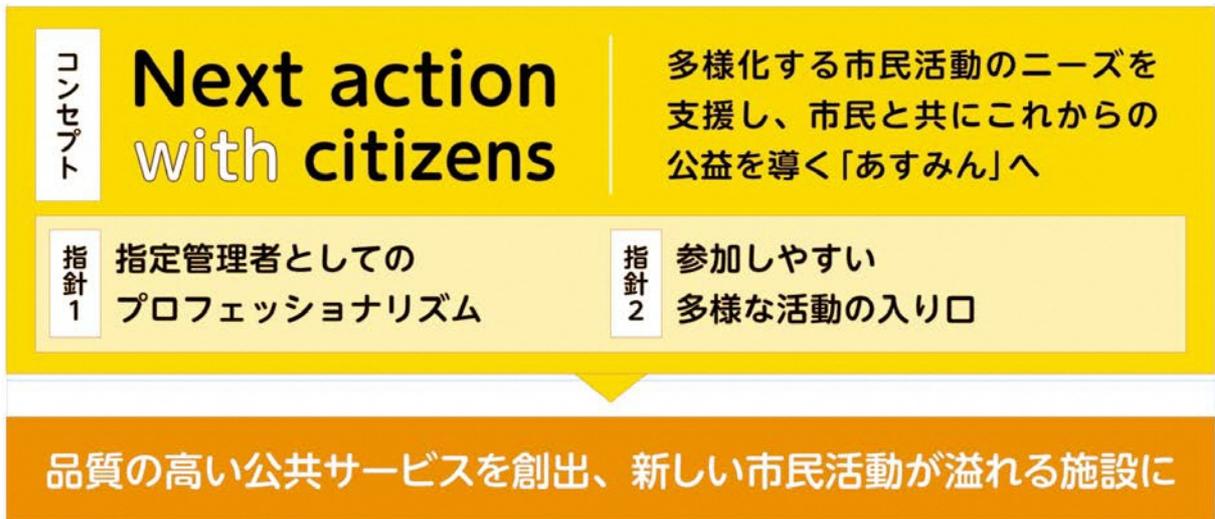
「あすみん」では、市民活動に留まらない多様な市民ニーズが集まります。この市民ニーズに応えるためにも、専門的な視点はとても重要になります。私たちは相談事業のフレームの中で、外部専門家を積極的に取り入れ、そのニーズを解析し、サービスのブラッシュアップを図ります。

2. コンセプト

大きく様変わりしている市民活動に対応できる新たな「あすみん」のサービスの実現を目指し、「Next action with citizens（多様化する市民活動のニーズを支援し、市民と共にこれからの公益を導く「あすみん」へ）」というコンセプトを設定します。これは、変わりゆくニーズを的確に捉え、質の高い公共サービスを提供するため、その対象である市民とともに「あすみん」の再構築を図るものです。

そのために、私たちは、市民が安心して参加できる指定管理者としてのプロフェッショナリズムと参加しやすい多様な活動の入り口の2つの指針を運営の中心に据えることを提案します。

私たちは、この2つの指針を効果的に組み合わせ、品質の高い公共サービスを創り出し、変化の著しいこれからの時代に対応できる「あすみん」を市民のみならずと再構築し、「あすみん」を新しい市民活動が溢れる施設に育てていくことをお約束します。



(1) 指定管理者としてのプロフェッショナリズム

「公益の増進のための適正な運営が行えること」「公正な管理運営」「市民社会における必要な情報発信」「公益的活動を行う団体との共働」などのこれまでの実績で培った経験と品質を提供します。

(2) 参加しやすい多様な活動の入り口

社会のニーズを反映したサービスへのブラッシュアップをはじめとして、これまでの市民活動相談事業から一歩進んだ新しい対話の形の提供やこれまで私たちが開発してきた市民活動における基盤強化事業などの社会的なニーズに沿ったプログラムの発展などを、これまでの市民活動団体だけという対象から、個人や企業などの多様な対象へと拡げて提供します。

2021 年度のふりかえり

新たな指定管理期間の始まりとなった 2021 年度は、5 か年のコンセプトとして掲げた「Next action with citizens（多様化する市民活動のニーズを支援し、市民と共にこれからの公益を導く「あすみん」へ）」の実装を目指し、従来の事業の強化や新規企画に立案をはかりました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴う人流抑制は断続的に推移し、昨年度の 43 日を上回る 90 日の臨時休館（5 月 12 日～6 月 20 日、8 月 9 日～9 月 30 日）を余儀なくされる事態となりました。世間の自粛と合わせて、NPO・ボランティアの活動も自粛傾向となり、開館している状況でも、夜間利用や週末のイベント開催などは少ない状況が続く一年となりました。

管理部門では、昨年度と同様に、安心してご利用いただける施設環境を徹底し、換気やドアノブの除菌、消毒用アルコールの設置などを徹底し、感染防止に努めました。また、臨時休館や非常事態宣言の発令・解除に伴って、開館時間の変更や利用人数の制限などの予約者への連絡、相次ぐキャンセルへの対応など、目まぐるしく変化する状況への的確な対応が求められました。利用者数は 21,770 名と同じくコロナ禍であった前年度をも下回る結果となりましたが、施設利用の方策としての、オンラインツールの活用はさらに活発なものとなり、あすみん利用の新たな可能性が高まりました。

情報部門においても、コロナ禍における影響は顕著で、対面での情報共有や交流が自粛制限される中、オンラインツールの活用や動画コンテンツの導入などに、新たな可能性を見出すことができました。

昨年度に引き続き発生した豪雨災害発生時には、災害ボランティアセンターの開設状況のほか、ボランティアとして現地入りができない人たちに向けて支援の手法を伝えました。それは、被災地支援に参画する様々な方法を提案することにもつながるものです。

また、ニーズは高いもののテキストによる情報が大量となり、使いにくさ読みにくさを生み出していた「メールマガジン」については、HTML 化を進め、より活用しやすいコンテンツとすることを目指しました。メールマガジンの読者からの評価も良好で、平均 28.2%と高い開封率で推移しています。

事業部門においても、昨年度と同様に講座や交流会の開催などにおいて、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、実施時期や実施方法を考えるなど苦慮する一年となりました。オンライン対応については、利用者への周知も進み、特に NPO 基盤強化講座においては全 8 回の開催で参加者数 261 人のうち 186 人がオンラインでの参加でした。オンライン活用が定着してきた結果として、コロナ収束後の継続も望まれるなど、参加者の満足度の高いものとなりました。

こういう状況の中、年に一度の大きなイベントと位置付けている「ボランティアフォーラム」は、開催も危ぶまれる中、予定であった 12 月から 3 月（5 日、6 日）へと開催期日をずらしての実施となりました。

「市民活動によって生まれるウェルビーイング（幸せ）」をテーマとして、多くのプログラムを実施しました。高校生によって企画制作された映画の上映会や東京から講師を招いた基調講演には、多くの参加者があり、各プログラムにおけるオンライン対応を充実させたことも相まって、2 日間の利用者数が過去最高の 852 人（うちオンライン参加者 124 人）となりました。

あらゆる面において、コロナ禍での対応に終始する一年となりましたが、新しい環境下での施設運営について、多くのスキルやノウハウ・可能性を見出すことができました。

A : 管理部門の事業

〈事業の目的〉

市民公益活動に関する推進事業の向上を図り、利用者に「共感」と「信頼」を生むサービスを提供することを目的として、本部と現場の間で迅速かつ柔軟に対応できる管理運営体制を構築する。また、利用者の意見や要望等を管理運営に反映させるため、評価基準となる「利用者アンケート」や「団体アンケート」等を実施する。自己評価委員会に代わり、ゲストを選出して「あすみんのこれからを語る会（Being あすみん）」を開催する。

〈事業体系〉

- 1-1. 組織体制
- 1-2. 職員配置
- 1-3. 管理運営の向上
- 1-4. 自己評価体制

〈事業総括〉

組織体制では、本部と現地の職員で毎月実施している「本部運営会議」が現場の改善・指導を図る場として機能し、随時本部担当職員と情報を共有した結果、安定した施設運営を行うことができました。自己評価制度も、自己評価委員会に代わり、今年度から「あすみんのこれからを語る会（Being あすみん）」を開催し、他施設と情報交換・共有することで、施設がこれから取り組むべき方向性や実現に向けた可能性を見出すことができました。利用者アンケートや団体アンケートでは、施設利用で好評を得ている箇所や改善・説明が必要な箇所が明らかになり、職員間で情報を共有しながら、利用者へのサービス向上に努めました。

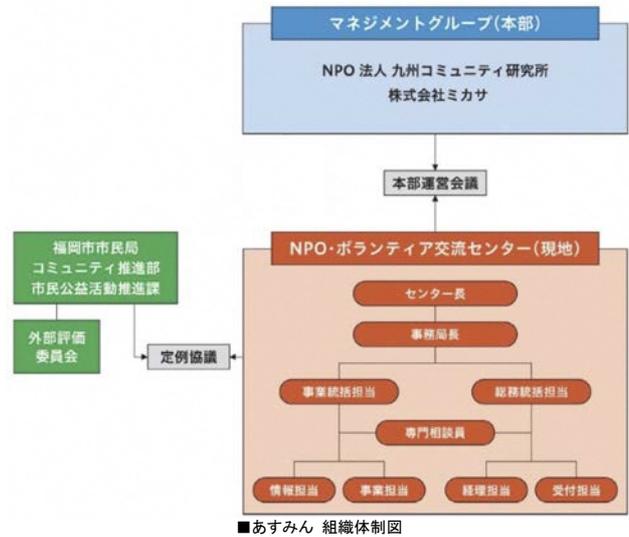
A	1-1	組織体制	1:管理運営体制
---	-----	------	----------

〈目的〉

事業方針に沿った適切な施設管理を行うため、安定した組織体制を構築する。

〈実施状況〉

- 業務を実施するための管理体制
 - ・統括責任者または副責任者を常時1名以上配置
- 責任者の配置
 - ・開館日数：257日
- 本部と現地との業務実施体制
 - ・「本部運営会議」の開催（月1回）
- 専門相談員の配置
 - ・専門的な相談にも的確に対応できる体制



〈成果〉

組織体制では、本部と現地の責任の所在や指示系統を明確にし安定した施設運営を図りました。また、毎月実施している「本部運営会議」は、現場の改善を図る場として機能しました。随時本部担当職員と情報を共有し、事前の課題発見や緊急連絡の取れる体制づくりに努めました。

A	1-2	職員配置	1:管理運営体制
---	-----	------	----------

〈目的〉

施設の円滑な管理運営を行うため、適材適所の人員配置に努め、職員の安定雇用にも努める。

〈実施状況〉

- 職員の配置
 - ・統括責任者・副責任者のほか、開館中2名以上の職員を配置
- 必要な人員の任用
 - ・13名（継続雇用）（令和4年3月末時点）
 - ・センター運営に精通する職員を継続的に雇用
- 勤務ローテーション
 - ・労働基準法などの関係法令を遵守

〈成果〉

前年度入職したスタッフが細やかなOJTを経て、実践でも高い能力を発揮しました。センター運営に精通する経験値の高い職員を継続的に雇用することで、突発的な出来事やトラブルにも的確に対応し、安定した施設の管理運営を行いました。また、WEBの管理やメディアデザインに高いスキルを持つ職員を配置して、迅速な情報発信を行いました。長期的な人材育成を大切にすることを方針とし、その結果離職者を生まず、安定した雇用の確保に繋がっています。

A	1-3	管理運営の向上（利用者アンケート）	1:管理運営体制
---	-----	-------------------	----------

〈目的〉

施設利用者の意見や要望を収集・把握し、より利用しやすい施設の管理運営に反映させる。

〈実施状況〉

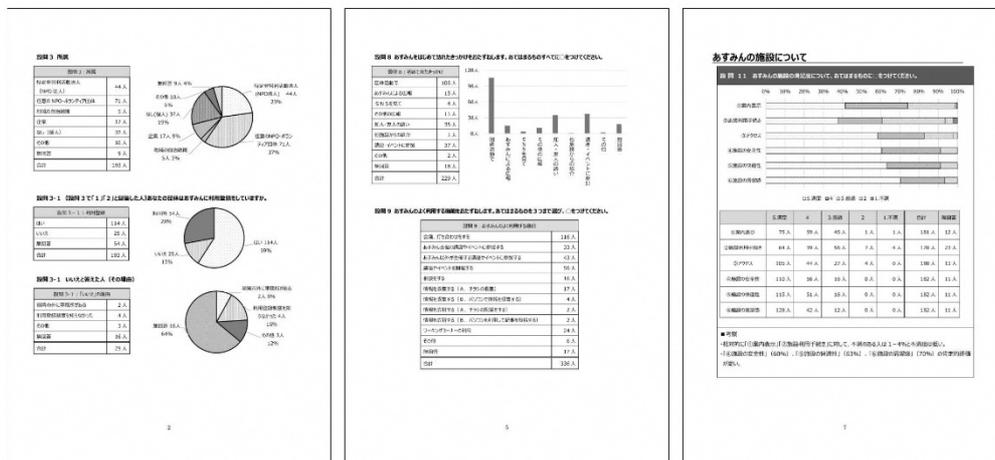
●詳細

- ・実施期間：1/15(土)～2/14(月)
- ・配布回収：窓口で配布・回収
- ・回答者数：193人
- ・設問項目
 - (1) あすみんの施設について
 - (2) あすみんの設備について
 - (3) あすみんのスタッフの接遇について
 - (4) あすみんが実施する各種事業について
 - (5) あすみんの情報提供について
- ・アンケート調査結果（報告レポート）の作成（添付資料として別途提出）
- ・あすみんの施設の満足度（五段階中「5.満足」と「4」の割合）
「アクセス」83%、「施設の安全性」91%、「施設の快適性」91%、「施設の清潔感」93%／肯定的評価が高い
- ・あすみんが実施する事業の満足度（五段階中「5.満足」と「4」の割合）
「設備の提供」86%「各種講座・イベント」85%／肯定的評価が高い
- ・あすみんが提供する情報ツールの満足度（五段階中「5.満足」と「4」の割合）
「SNS Facebook」66%「ホームページ」65%「あすみん情報誌」65%
「メールマガジン」62%／肯定的評価が高い
- ・あすみんに対する総合的な満足度
「満足」「やや満足」の合計は131人（68%）という結果でした。



〈成果〉

利用者アンケートでは、調査期間中のすべての利用者（任意、一人一回）に対してアンケートを実施することで、施設利用者のニーズや要望を知ることができました。アンケートの実施期間とまん延防止措置期間が重なったため、利用者が少なくアンケートの回収数が例年より少ない件数となりました。アンケートの記述欄には、要望としては「Wi-Fi環境の向上」や「施設の予約の簡略化」、「USBメモリーからのプリント」などについて記載があり、今後の事業運営のヒントを得ることができました。また、施設の清潔感や職員の対応には高い評価を得ました。



■利用者アンケートの調査結果（報告レポート）の一部

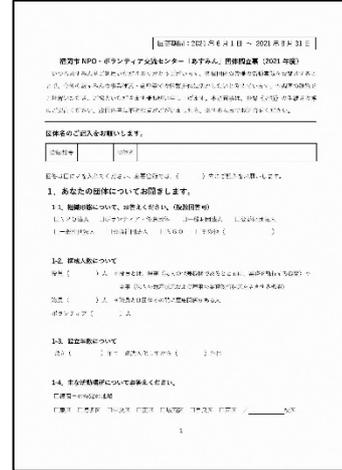
〈目的〉

今後の事業運営や登録団体の運営基盤の向上を目指すために、登録団体を対象に更新期間中に実施する。

〈実施状況〉

●詳細

- ・実施期間：6/1(火)～9/30(木)
- ・対象団体：あすみん登録団体（0001～0762）
- ※R.3.3.31までに登録のある団体が対象
- ・配布回収：団体調査票を更新書類と同時に送付。
更新手続き時、窓口または郵送にて回収。
- ・回答団体数：338団体（対象団体：464団体、回収率72.8%）
- ・設問項目（大項目5、全10ページ）
 - (1) あなたの団体について
 - (2) 団体運営について
 - (3) 団体運営のスキルアップ、能力向上について
 - (4) あすみの利用状況について
 - (5) 新型コロナウイルス感染症の団体活動への影響について
- ・あすみん団体調査票結果（報告レポート）の作成
（添付書類として別途提出）

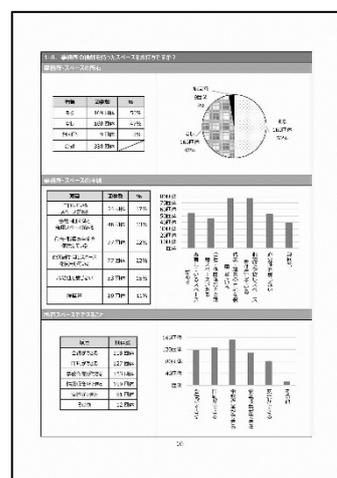
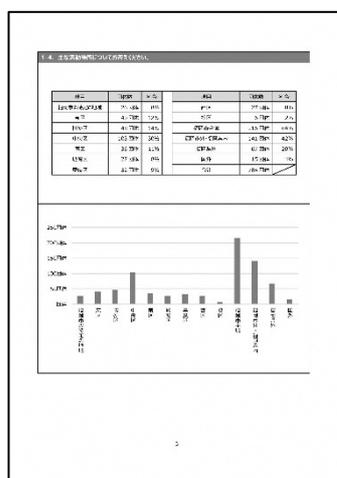
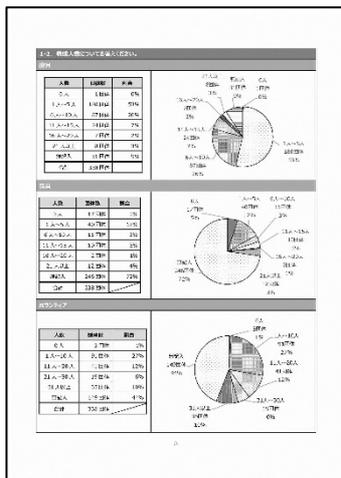


■団体調査票用紙

〈成果〉

顕著な傾向としては、①「あすみに求める役割（複数回答）」では依然「貸室（セミナールーム・会議室）の提供（265団体）」「スペース（ミーティングコーナー）の提供（226団体）」「機材（パソコン・印刷機）の提供（123団体）」の順に3つのハードの提供が強く望まれています。

②「団体運営のスキルアップ（複数回答）」では、「広報・情報発信（147団体）」「人材確保や育成（127団体）」「支援者の拡大（120団体）」の順に課題として認識を持つ団体が多いことが挙げられます。あすみが提供できるソフト（講座、情報発信）では、ハイブリッド開催も取り入れ、それらの点に注力することが効果的だと考えられます。



A	1-4	管理運営の向上（自己評価体制）	1:管理運営体制
---	-----	-----------------	----------

〈目的〉

今後の管理運営や組織体制、市民公益活動に関する推進事業の向上を図ることを目的とし、学識経験者、NPO・ボランティア団体、企業などからゲストを選出し、「あすみのこれからを語る会（Being あすみん）」をオープンミーティングのスタイルで開催する。

〈実施状況〉

●Being あすみんの開催

- ・実施日：2/23（水）13時～15時
- ・参加者数：14名（うち、7名オンライン参加）
（内訳：あすみん職員12名、佐賀市民活動プラザ職員3名、福津市職員2名）
- ・ゲスト：佐賀市民活動プラザ プラザ長：高見氏、副プラザ長：秋山氏、相談員：岡野氏
- ・意見交換内容：
 1. 設備関連
 2. 事業関連
 3. 管理運営
 4. 市民活動の動向



■Being あすみん開催の様子

●事業評価指標の作成

今後の管理運営、市民公益活動に関する推進事業の内容や体制などの向上を目指すため、内部での目標（評価指標）を設定し、達成度を図ります。

〈成果〉

事前に佐賀市民活動プラザと質問内容を交換していたので、副プラザ長の秋山氏を中心に円滑に回答していただきました。回答に付随した質問も挙がり活発な意見交換が行われ、とても充実した内容となりました。社会貢献活動のためにあすみんの利用を希望する企業の利用登録について、あすみんでも導入を考えていますが、佐賀市民活動プラザの企業の利用の現状を知ることで社会貢献活動の捉え方の幅が広がりました。また、有料で行っている事業の事例を紹介していただき、自立的な公共施設運営について考えることにつながりました。あすみんの利用者数の向上に対しての様々な可能性の検討に繋がりました。職員1人1人が日々の運営や事業の計画について意識するきっかけとなりました。

〈事業の目的〉

利用者に安全で快適に利用する場を提供する建物・設備等の施設管理は、指定管理事業の根幹をなす業務である。各種法令遵守のもと適切な施設管理等を行い、利用者の満足度向上に取り組むことを事業目的とする。また、施設の管理運営にあたっては、環境への配慮などを踏まえ、職員全員が日常的に地球に優しい事業運営に配慮するとともに、事業の経費削減、効率化を図る。

〈事業体系〉

- 2-1. 清掃業務
- 2-2. 保安警備業務
- 2-3. 施設・設備の保守、維持管理、修繕業務
- 2-4. 備品・什器の維持管理業務
- 2-5. 環境問題への配慮
- 2-6. 経費縮減対策

〈事業総括〉

利用者満足度の向上と利用者の安全性・快適性の確保のため、現在設置しているマニュアルに沿って、仕様書に定められている維持管理業務を遂行しました。日常の清掃、点検、警備業務を確実におこない、安全で快適な場の提供と、備品の速やかな修繕や要望のある備品の購入に努めました。また、コロナ禍の状況を鑑み、ミーティングコーナーや情報コーナーには飛沫防止の亚克力板を設置、定期的な清掃と換気など、利用者の安心感につながるサービスを提供しました。

利用者アンケートでは、『施設の快適性』91%、『施設の清潔感』93%とどちらも満足度が高く、利用者からは安心して快適に過ごせる施設という評価を得ています。

次年度以降も職員全員が施設管理を重要な業務と認識し、マニュアルや点検内容を見直しながら、利用者満足度の維持・向上に努めます。

A	2-1	清掃業務	2:施設管理
---	-----	------	--------

〈目的〉

日常清掃及び定期清掃業務を行い、公共施設として快適な空間を保つ。

〈実施状況〉

施設の良い衛生環境、美観の保持を心がけ、快適な空間を保つために仕様書に記されている業務を遂行しました。

●日常清掃業務

●定期清掃業務（年4回）

第1回：5/26（水）

第2回：8/25（水）

第3回：11/24（水）

第4回：2/23（水）

●定期清掃の効率化

- ・清掃の効率化を図るために、日常の清掃と休館日の清掃に区分し、リスト化しました。特に、休館日は日常できない箇所を分担し清掃しました。



■日常清掃(ブラインドの清掃)のようす

〈成果〉

日常清掃では、曜日毎に重点的に行う清掃場所を決めるなど、清掃箇所のリスト化を行い、効率的に清潔に保てるよう努めました。また、汚れの具合によって濃度を変えた洗剤を準備したり、清掃箇所によって雑巾の種類を変えたりするなどの対応をすることにより、効果を高めました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、使用後や巡回時に換気・消毒作業を行い、衛生的な状態を保つ対応をしました。館内の各所にアルコールを設置しており、利用者アンケートの自由記述にも、「安心して利用できる」「常に清潔でとても利用しやすい」と評価を得ています。

A	2-2	保安警備業務	2:施設管理
---	-----	--------	--------

〈目的〉

利用者及び施設の財産の安全性を確保するために、施設・設備の保守や維持管理を適切に行い、施設内の秩序を維持し財産の保全を図る。

〈実施状況〉

●施設の巡回等による点検

- ・1日あたり、11時、15時、19時の3回実施

・点検項目：

- ①破損箇所はないか／②利用者は適正な使用方法か
- ③不審物はないか／④不法行為者はいないか
- ⑤所管課又は警察等への報告はないか

●所管課・警察等への報告

- ・不審者対応の報告：1回

点検項目	巡回		
	11:00	15:00	19:00
破損箇所はないか			
利用者は適正な使用方法か	印	印	印
不審物はないか			
不法行為者はいないか			
所管課又は警察等への報告はないか			
特記事項			

■チェック表の巡回項目

〈成果〉

職員が館内の巡回を1日3回行い、安心安全な施設の提供を維持しました。利用者の申告によりトイレ個室のドアに、貼り紙が無断で貼られていることが判明しましたが、すぐに他の場所も確認し、4か所から貼り紙を発見しました。それらの貼り紙は早急に撤去し、コンシェルジュ（ビル管理者）にも報告しました。迅速かつ適切な対応から大きなトラブルが発生することなく施設を運営することができました。

A	2-3	施設・設備の保守、維持管理、修繕業務	2:施設管理
---	-----	--------------------	--------

〈目的〉

利用者が安全・快適に施設を利用できるように、施設・設備等の適切な維持管理を行う。

〈実施状況〉

- 施設設備の正常な機能を保持
 - ・点検、保守、不具合発生時の修繕、市への報告
 - ・インナーコンセント点検・修理（4箇所） ・セミナールームのパーティーションの点検
- 拾得物の取り扱い
 - ・遺失物や拾得物の取り扱いには台帳を整備。今年度は8月、2月の計2回、中央警察署に届出。

〈成果〉

1日3回の巡回や、開館・閉館作業時に施設内を点検し、不具合発見時は、所管課に報告をしています。また拾得物については、中央警察署に定期的に届出しています。部品の破損により蓋の開閉不良が見られた床面のインナーコンセントについては耐久性の高い部品へと交換しました。

A	2-4	備品・什器の維持管理業務	2:施設管理
---	-----	--------------	--------

〈目的〉

備品・什器の点検、保守、修繕を行い、利用者が安全・快適に施設を利用できるようにする。

〈実施状況〉

- 管理運営用備品購入
 1. ハンディ掃除機3台をミーティングコーナー・ワーキングコーナーへ設置
 2. 有線LANアダプター（USB-AタイプとUSB-Cタイプ）を購入
 3. マイク・スピーカーシステムの購入
- 管理運営用備品・什器の正常な機能を保持
 - ・プロジェクターのネジ締め
 - ・セミナールームAおよびBに設置している電波時計（壁掛け）の交換
 - ・ワーキングコーナーの強力2穴パンチの刃の交換
 - ・会議室の椅子の交換
 - ・ワーキングコーナーの「ペーパーカッター（ロータリー式）」の刃と刃受けの交換
 - ・ワーキングコーナーの裁断機の刃の交換
 - ・カラーカードプリンターの交換
- 附属備品のチェック（月1回）
 - ・休館日に作動確認と在庫確認
- 附属備品の使用方法
 - ・休館日に職員全員でワーキングコーナーの利用方法を再確認
 - ・オンライン備品貸出リストの作成と貸出ルールの見直し



■椅子の破損部分

管理備品一覧 (Web公開・印刷用PDFはこちら)

No.	品名(品数・単位)	画像	単位	備考
1	ハンディ掃除機 (3台)		1	対応電源ケーブルを別途用意し、設置場所を確認する。
2	ハンディ掃除機 (3台)		1	
3	ハンディ掃除機 (3台)		1	対応電源ケーブルを別途用意し、設置場所を確認する。
4	マイク (10台)		1	マイクケーブルの接続確認、マイクケーブルの接続確認、マイクケーブルの接続確認。
5	USBアダプター (10台)		1	対応電源ケーブルを別途用意し、設置場所を確認する。
6	ケーブル (10台)		1	対応電源ケーブルを別途用意し、設置場所を確認する。

※上記の備品は、設置場所を確認し、ケーブルの接続を確認し、設置場所を確認する。

〈成果〉

利用者が安全に施設を利用できるよう日常点検を確実に行いました。コロナ禍のニーズに合わせて、備品の購入やリスト作成、貸出ルールの再検討を行ったことで、オンライン会議やセミナー実施がしやすい施設環境の向上へとつながりました。

A	2-5	環境課題への配慮	2:施設管理
---	-----	----------	--------

〈目的〉

古紙分別方法の変更による経費削減に取り組むとともに、職員及び利用者に向けた省エネ意識の向上を図る。また、日頃より衛生環境保持に努め、ウイルス等の脅威に対応するため、衛生に関するさまざまな対策を講じる。

〈実施状況〉

●省エネ診断

- ・電気メーターの使用状況の確認

●紙類の省資源化

- ・古紙リサイクル事業の活用
- ・裏紙の再利用化
- ・デジタルガジェット（ipad）を使用したペーパーレス化



■古紙の回収

●衛生環境の保持

- ・受付窓口、館内数カ所に消毒液を設置
- ・団体への消毒スプレーの貸し出し
- ・貸室利用後の部屋の換気、希釈した次亜塩素酸ナトリウムでのドアノブ等の除菌
- ・巡回時に施設の換気、除菌



■消毒液の設置と使用の励行

●職員の健康管理

- ・定期健康診断の実施（対象者全員が受診）

〈成果〉

電気使用量はエアコンの温度調節、照明の点灯・消灯を意識して節減に努めました。利用者にもお声掛けし、サービスの質と環境配慮の適切なバランスについてご理解ご協力いただきました。電気使用量は昨年度は53,135kWh、今年度は46,764 kWhとなり11%の削減となりました。

受付窓口と館内4カ所に消毒液を設置し、団体への消毒スプレーや検温器の貸出しも行い、新型コロナウイルス感染拡大の防止策に努めました。また、手で触れる箇所（ドアノブ、空調機のボタン等）の消毒や、定期的な換気を行い、清潔で衛生的な環境を作りました。施設側が行う衛生管理と利用者側に行ってもらった衛生管理の両方をサインや掲示物で案内し、清潔で衛生的な環境作りをすすめました。その結果、職員をはじめ、館内でのクラスター発生を防ぐことができました。また、全職員が勤務前の検温や、健康診断の受診やインフルエンザの予防接種を行い、職員の健康管理にも十分な注意を図りました。

A	2-6	経費縮減対策	2:施設管理
---	-----	--------	--------

〈目的〉

管理運営用の備品・什器の正常な機能を保持する。

電気の契約プランの見直しなど、電気料金の軽減につながる新電力の導入検討を提案する。

〈実施状況〉

- 事務局複合機の印刷料金
 - ・年間管理表の作成
- 電気料金の軽減
 - ・電気使用量一覧の作成
 - ・西鉄ビルへの新電力導入可能かの問合せ

〈成果〉

電気料金やコピーカウント料金の一覧を作成したことで、翌月の管理意識につなげることができました。また、臨時閉館期間は、コピー・電気料ともかなり縮減できました。来館者の快適さ・安全を考慮しつつ、電気料の縮減を図るよう配慮しました。

〈事業の目的〉

危機管理・安全対策は、利用者の安全確保を第一の目的とするものです。あすみんで起こりうる様々な危機（風水害、震災等の災害、感染症、環境汚染、爆発物等不審物、火災、不審者侵入、犯行予告、抗議行為等）に迅速かつ的確に対応するため、「福岡市地域防災計画」「福岡市危機管理計画」及びビル管理会社の管理計画などを踏まえた「危機管理・安全対策マニュアル」を運用する。

〈事業体系〉

- 3-1. 危機管理に関する取り組み
- 3-2. 安全対策による取り組み

〈事業総括〉

利用者の安全とともに職員の安全にも配慮した環境を作ることができました。朝・昼・夕の業務引継ぎ時に、些細なことも情報共有する場を設けたことで、速やかに対応できる仕組みとなりました。大声を出すなどの不審者対応についても福岡市やビル管理会社への速やかな報告と対応で連携がとれました。引き続き、ビル管理会社や中央児童会館あいくる、その他テナントと連携を図り、利用者の安全確保がとれる体制を敷く必要があります。

A	3-1	危機管理に関する取り組み	3:危機管理・安全対策
---	-----	--------------	-------------

〈目的〉

あすみに特化した「危機管理・安全対策マニュアル」に基づき、施設で起こりうる様々な危機に迅速・的確な対応を行う。

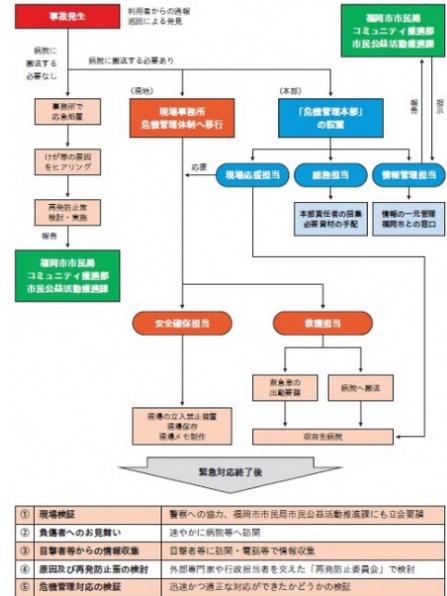
〈実施状況〉

●危機管理・安全対策マニュアルの運用

- ・防火・防災訓練時に職員がフロー図の確認を行い、火災等の発生を想定した訓練を実施。

〈成果〉

職員がシフト制で勤務する中で情報共有を行うために、毎日の引継ぎ時に、些細なことも共有できるための場をつくりました。新型コロナウイルス感染対策フローを準備し、常に対応可能な状態にしました。



A	3-2	安全対策による取り組み	3:危機管理・安全対策
---	-----	-------------	-------------

〈目的〉

日常的な犯罪の防止や危険箇所の早期発見に努め、ビル管理会社、テナントと連携を図る。また、犯罪、事故、火災の発生を未然に防ぎ、利用者の安全を確保する。防災事故処置訓練、誘導灯・懐中電灯の整備点検等を行い、利用者の安全確保を徹底する。

〈実施状況〉

●天神 CLASS 消防訓練（年2回）

- ・実施日：10/25(月)
- ・参加者：3名
- ・実施日：3/24(木)
- ・参加者：2名

●点検及び自主点検

- ・実施日：10/27(水)
- ・点検実施者：櫻木・耘野
- ・実施日：3/23(水)
- ・点検実施者：櫻木・佐藤
- ・消防用設備等について、自主点検チェック表を用いた確認を実施し、不具合や異常等の発見はありませんでした。



■自主点検の様子

〈成果〉

10月の天神 CLASS 消防訓練では、平常時からテナント間の交流が図れていることで、隊長の指示に従い、館内利用者への避難の声掛け、逃げ遅れの人がないかの確認など、円滑に訓練を行うことができました。また、3月の訓練はワークショップ形式で実施し、大きな建物の図面を用いて災害対策のシミュレーションをしました。グループに分かれて状況判断や対応方法等の議論を行いました。活発な議論と情報共有が行われ、テナント同志の連携向上や災害時の役割を改めて考える機会になりました

〈事業の目的〉

利用者に関する保有個人情報や機密情報の重要性を認識し、個人情報や情報資産に関して、適正な管理と保護を徹底します。情報保護に関する市の施策に対し、管理運営者としての責務があることを重視し、「最新技術の導入」と「当事者意識の醸成」に力を入れ、情報へのアクセス制限と人的過失の低減を図り、それらの情報資産を適切に管理します。また、情報セキュリティに関する国際基準「ISO27001」に基づいた運用基準に立ち、福岡市個人情報保護条例等に対応する管理体制づくりに取り組みます。

〈事業体系〉

- 4-1. 個人情報・情報資産保護への体制
- 4-2. 情報セキュリティの方策・漏洩時の対応

〈事業総括〉

個人情報保護規程（個人情報保護コンプライアンス・プログラム）の運用や情報セキュリティ研修の実施により、個人情報の適正な管理と情報資産の保護を遂行しました。職員の個人情報の管理やセキュリティに対する意識を高め、情報の機密性を高くすることが出来ました。

A	4-1	個人情報・情報資産保護への体制	4:個人情報・情報資産の保護
---	-----	-----------------	----------------

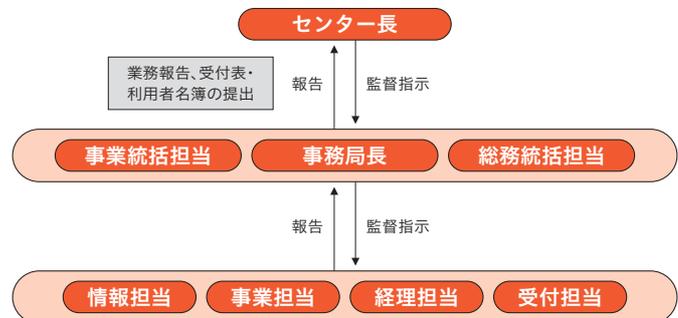
〈目的〉

「個人情報管理規程（個人情報コンプライアンス・プログラム）」を運用し、個人情報や情報資産に対して、適正な管理と保護を徹底する。

〈実施状況〉

●概要

- ・「個人情報管理規程（個人情報コンプライアンス・プログラム）」を運用
- ・利用者から収集した個人情報の漏洩や紛失に対する防止策の実施
- ・個人情報保護研修の実施：年1回（1月）



■個人情報保護の管理体系図

〈成果〉

個人情報保護制度の基礎知識を学び直し、外部とのあすみんメールのやり取りなど、業務内で実際に行っている取り扱い方法に齟齬がないかを確認しました。また、必要以上に個人情報を収集しないことや、収集した個人情報はそれ以外の目的で使用しないことを徹底しました。

A	4-2	情報セキュリティの方策・漏洩時の対応	4:個人情報・情報資産の保護
---	-----	--------------------	----------------

〈目的〉

利用者に関する保有個人情報や機密情報の重要性を認識し、個人情報や情報資産に関して、適正な管理と保護を行うために、マニュアルの読み合わせや現状の見直しを行う。

〈実施状況〉

●概要

- ・情報管理研修の実施
身近にある「情報」の種類や情報の適切な取り扱い方、情報セキュリティに関する過去の事例について学びました。
- ・事務室内の個人情報、情報資産の管理
事務室内の個人情報、情報資産に関わるメモの処理やファイルの施錠保管などを徹底しました。
- ・HP、SNSのパスワードの管理
HP、SNSの管理者パスワードの定期的な変更を実施しました。
- ・メールフォルダの整理
迷惑メールの受信拒否の設定や不要なメールの削除を行い、誤送信の防止を徹底しました。
- ・職員用PC、利用者用PCのウイルスチェックを実施しました。



■情報セキュリティ研修の様子

〈成果〉

現状の課題を踏まえながら、普段の業務の中で取り扱う個人情報や情報資産の管理確認やルールの見直しを行いました。研修を通して職員全員のセキュリティに対する意識を高め、情報の機密性を高くすることに努めました。

〈事業の目的〉

多くのスキルを要求される職業として、確実な成長をしっかりとサポートするための労働環境を常に考えて、社会状況の変化に対応しながら整備すること重要なことだと捉えています。様々なライフスタイルが混在する時代のワークライフバランスは個々で異なるものであり、適切なコミュニケーションが最も重要だと考えて「職員がイキイキと働ける環境づくり」に重点を置いたコミュニケーションプログラムを実施する。

〈事業体系〉

- 5-1. ワークライフバランスの充実
- 5-2. 労働環境の促進

〈事業総括〉

「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」「リモート勤務」「勤務時間設定の変更」など、業務のあり方のみならず職員の生活の変化にも配慮した労働環境の整備を、早急に進めました。万が一の場合に備えて、濃厚接触者が多く発生しない仕組みや、リモートと現場勤務などの働き方の多様性を考慮して、緊密に情報共有できる環境を作りました。変化を予想して、臨機応変に対応できる体制を作ることができました。

A	5-1	ワークライフバランスの充実	5:労働環境
---	-----	---------------	--------

〈目的〉

様々なライフスタイルに配慮したワークライフバランスの実践を、コミュニケーションを通じて「職員がイキイキと働ける環境づくり」を目的に実施する。

〈実施状況〉

●担当事業・公休の希望日を事前に把握・共有する

数ヶ月先のスケジュール（シフト・事業カレンダー）を用意して全職員に共有し、事業の計画を円滑に進め、プライベートの時間の確保ができるようバランスを調整しながらシフトを作成しました。

●新型コロナウイルス対策ワクチン実施によるシフトの設定

接種後の副反応を想定した余裕のあるスケジュールを事前に予定し、職員が共有、対応できる環境をつくることで、通知が届いた後に速やかに接種することができました。

●1on1の実施（不定期）

悩みがある職員に対しては、責任者以上の職員が個別に相談対応を行いました。

●個人面談の実施

事業の進捗や働き方の不安などについて責任者・事務局長と職員が直接、確認できる場を実施しました。（年2回）

●本部との直接コミュニケーションの実施

休館日の研修や職員会議に本部職員が参加し、本部と現場の声を共有しながら、考え方の差異や疑問・不安の解を行ないました。

●あすみん SNS を活用した情報発信の実施（Facebook）

各職員の興味関心、個性に沿った企画によって、記事作成・写真撮影などを行い、モチベーションの向上に繋がる機会を構築しました。

〈成果〉

気軽に挨拶できる雰囲気づくりと、定期的なコミュニケーション機会の創出によって、事前に職員の状況を把握することで、適切な準備と対応をすることができました。

A	5-2	労働環境の促進	5:労働環境
---	-----	---------	--------

〈目的〉

多くのスキルを要求する職業のため、確実な成長をしっかりとサポートすることが労働環境の整備における最も重要なことと捉え、「職員がイキイキと働ける環境づくり」を重点に置く

〈実施状況〉

●職員間の新型コロナウイルス対策感染予防対策

- ・職員同士が間隔を空けての業務
- ・リモート勤務の導入
- ・ワクチン接種の実施（全職員）

●開館時間変更に伴うシフト体制の変更

- ・11月1日からの開館時間変更に伴い10月に試行シフトによる実践を行った

〈成果〉

緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が繰り返し発動される中で、試行錯誤しながらシフトや労働環境を調整し、安心して業務が遂行できるように努めました。リモート勤務や最小人数による勤務など、大きく環境が変化するなか、職員の声を聞いて精度を上げました。また9時間開館への変更については、新シフトによる試行期間を設け、変動する勤務体制に円滑に対応できる準備と安心して働ける環境を作ることができました。

〈事業の目的〉

人材育成においては、施設の円滑な運営と健全な管理を遂行し、安心・安全な施設を提供できる優れた人材の育成を目的とする。あすみの管理運営においては、利用者の立場を理解しながら、経営感覚と接客知識をもって業務にあたることが求められるため、職員を対象とした定期的な研修を行う。職員のレベルに応じた育成計画を作成し、指定管理期間を通じた長期的なスキルアップを図る。

〈事業体系〉

- 6-1. 人財マネジメント
- 6-2. 職員研修
- 6-3. 職員の育成・スキルアップ

〈事業総括〉

公共の施設を運営する職員として施設の設置目的を理解し、施設の円滑な運営と健全な管理を遂行できる人材を育成するために、様々な研修と資格取得に取り組みました。

マネジメントグループ代表や本部職員とのコミュニケーションを通して公共施設の管理運営を、民間事業者が指定管理として担うことへの認識を新たにしました。公共施設の管理運営に従事する職員像を明確にし、グループ全体の指針を現場職員の評価・指導に取り入れました。

コロナウイルスの影響もありましたが状況に合わせて工夫しながら研修を実施しました。ユニバーサルデザイン研修、傾聴研修、防火研修などを受講し、施設の使いやすさの向上や、利用者に寄り添った対応をまなび、様々な角度から安心して利用いただける施設づくりに取り組みました。

CSR検定について、昨今のSDGsの普及を通して社会的なニーズが高まり、内容も専門性が高くなっているようです。「CSRリテラシーの基本」を身に付け、市民公益活動を支える職員としての意識向上と知識習得に努めました。

A	6-1	人財マネジメント	6:人材育成
---	-----	----------	--------

〈目的〉

職員それぞれの特長を生かし施設運営に反映させることを目的とする。マネジメントグループ本部と現地責任者が就労状況や育成について協議し、最適な人材の配置や担当などのマネジメントを行う。

〈実施状況〉

●人財マネジメント会議の実施

- ・年 12 回実施（コロナウイルス感染症対策の為オンラインでも開催）

●本部と現場職員のコミュニケーション

- ・新年度式、新年式、休館日会議、ほか



〈成果〉

■一年の抱負を語る新年式

マネジメントグループ本部や他の指定管理施設を交えて毎月開催している人財マネジメント会議に参加して、公共施設の管理運営に従事する職員像を明確にし、グループ全体の指針を現場職員の評価・指導に取り入れました。休館日に行う全現場職員が参加する会議は本部職員も同席し、現場のコミュニケーションの評価と改善提案を行いました。マネジメントグループ代表とも直接会ってコミュニケーションを取れる機会を設け、日々の窓口業務の実例を共有しながら、民間が公共を担う上での姿勢を再度確認しました。それぞれの職員が安心して職務の遂行にあたることができるように努めたことで、離職者を出すことなく安定した運営ができました。

A	6-2	職員研修	6:人材育成
---	-----	------	--------

〈目的〉

利用者の立場を理解し、業務にあたることのできる人材の育成を目的とする。施設の円滑な運営と健全な管理を遂行するため、すべての職員を対象に定期的な研修を行う。

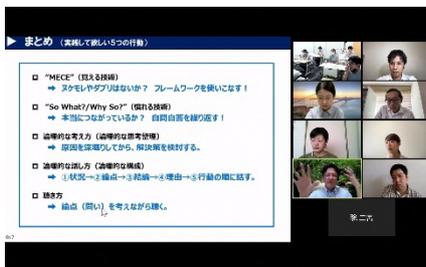
〈実施状況〉

●一般研修の実施

実施日	職員研修項目	講師	受講者数
4月28日	指定管理講座	特定非営利活動法人九州コミュニティ研究所	12人
4月28日	ボランティア講座・NPO 入門講座	内部講師	12人
6月23日	ワーキングコーナー研修	理想科学工業株式会社	12人
7月28日	傾聴研修	特定非営利活動法人 FFA フォロワーシップ協会	9人
9月22日	ロジカルシンキング研修	ビジネスデザインラボ・福岡地域戦略推進協議会	12人
10月27日	防火研修	内部講師	12人
11月24日	ユニバーサルデザイン研修	内部講師	12人
12月22日	相談研修	内部講師	12人
1月26日	個人情報保護研修	社労士法人後藤労務管理事務所	12人
2月15日	令和3年度指定管理者人権研修	福岡市人権啓発センター	2人
3月23日	R4年度事業計画研修	内部講師	13人

〈成果〉

臨時閉館等により研修が中止となった月もありましたが、9月にはハイブリッドで研修を開催するなど、状況に合わせて工夫しながら研修を実施しました。ユニバーサルデザイン研修では、他施設の職員と一緒にグループワーク形式でユニバーサルデザインを考えることで、利用者の目線に立った新たな気づきがあり、施設の使いやすさの向上に活かすことができました。傾聴研修ではロールプレイングを通して相談対応の練習を行い、利用者寄り添った窓口対応を実践しながら学びました。利用者の安全を守る防火研修も実施し、様々な角度から安心して利用いただける施設づくりに取り組みました。



■ハイブリッド開催のロジカルシンキング研修



■ユニバーサルデザイン研修でのグループワーク



■個人情報保護研修

A	6-3	職員の育成・スキルアップ	6:人材育成
---	-----	--------------	--------

〈目的〉

定期的な研修や資格取得の奨励などを通して、職員それぞれの確実なスキルアップに努める。

〈実施状況〉

● 3級ユニバーサルデザインコーディネーター講座・資格取得コース ※オンライン開催

- ・実施日：6/28（月）
- ・実施団体：特定非営利活動法人 実利用者研究機構
- ・参加者：3名

● 甲種防火管理者講習

- ・実施日：9/29（水）、9/30（木）
- ・実施団体：福岡市消防局予防部 防災センター
- ・参加者：1名

● CSR検定 ※オンライン開催

- ・実施日：11/21（日）
- ・実施団体：株式会社オルタナ
- ・参加者：8名（3級：7名、2級：1名）
- ・合格者：4名（3級：4名）



■ CSR 検定テキスト

〈成果〉

「3級ユニバーサルデザインコーディネーター講座・資格取得コース」と「CSR検定」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインで実施されました。

3級ユニバーサルデザインコーディネーター講座では、具体的な事例や場面を想定したワークを通してユニバーサルデザインを施設に導入するまでの考え方などを学びました。受講した全職員が資格を取得しています。

「甲種防火管理者講習」では、安全なセンター運営のために火災や地震時など緊急時における対応方法を学びました。

CSR検定について、昨今のSDGsの普及を通して社会的なニーズが高まり、内容も専門性が高くなっているようです。CSRの基本知識を身に付け、企業や組織が民間公益活動の担い手であるNGO/NPOや他のステークホルダーと連携して社会課題を解決するなど、「CSRリテラシーの基本」について学ぶことで、市民公益活動を支える職員としての意識向上と知識習得に努めました。合格に届かなかった職員も、受験を通じ知識を得て日々の情報発信業務などで活かしています。

〈事業の目的〉

利用者に対するサービスの質を「使いやすさ」と「安心」という2つの視点でサービスを見直し、本来の意味でサービスの質の高い施設づくりにつとめる。利用者のニーズを正確に掴み、すぐに運営に反映できる環境を提供する。

〈事業体系〉

- 7-1. 市民公益活動促進のための施設の提供
- 7-2. サービスの質の確保・向上
- 7-3. 団体登録の更新
- 7-4. ユニバーサルデザインの推進
- 7-5. 施設機能の活用促進
- 7-6. カスタマーハラスメント対策

〈事業総括〉

緊急事態宣言による臨時休館や、利用の自粛により利用者数は、21,770人と前年度比の97.4%にとどまりました。緊急事態宣言解除後も団体の活動自粛が続き、セミナールーム等のキャンセルも多く、更にリモートでの打ち合わせなども増加し少人数での利用が増え、時代に合わせた施設の機能提供が求められました。利用者のニーズに合せ、ウェブカメラ、マイク、Wi-Fiなどリモートに必要なものを貸し出し、利用出来ることの周知を行い、快適な施設の運営に努めました。次年度は更に、市民が気軽に安心して使える施設を目指し、ルールの見直しと改善を市と協議しながら進め、より多くの市民が交流できる空間づくりを検討する必要があります。

A	7-1	市民公益活動促進のための施設の提供	7:窓口・サービス
---	-----	-------------------	-----------

〈目的〉

市民公益活動の担い手の増加を図るため、施設を利用する団体の登録を勧め活動の場を提供する。

〈実施状況〉

●施設の提供

- ・受付・案内業務
- ・交流スペースの提供
- ・活動スペースの提供
- ・附属設備の提供

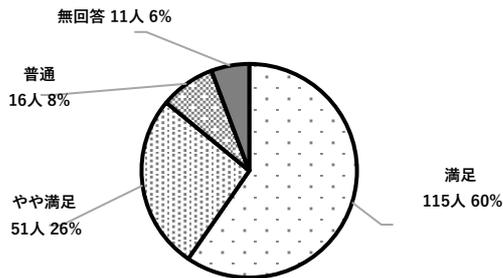
●利用者数 21,770名

●登録団体数

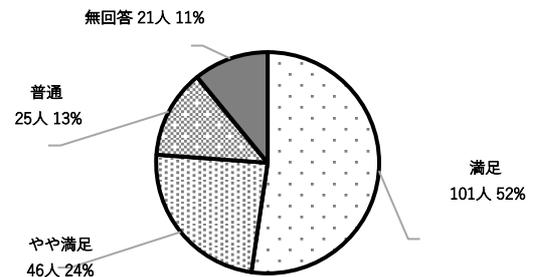
- ・新規：49団体
- ・抹消：65団体（累計：団体448団体）



■ミーティングコーナーへのご案内



■利用者アンケートの“施設の快適性”の満足度



■利用者アンケートの“スタッフの言葉づかい”の満足度

〈成果〉

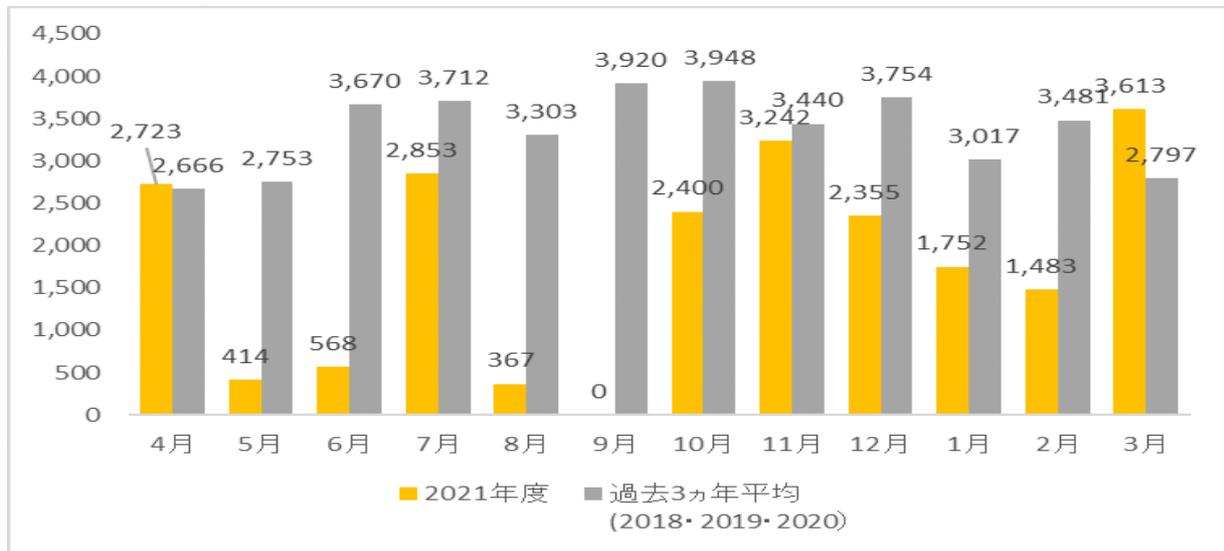
新型コロナウイルスの影響が続く中、新規登録団体数は前年度と比べ約1.5倍（49団体）となりました。市民公益活動の促進に向け、感染拡大予防に努めながら利用登録の受付、交流スペースの提供、活動スペースの提供、附属設備の提供等を行いました。

緊急事態宣言を受けて臨時休館になった際は、貸室を予約している団体へ速やかに連絡し利用が出来ない旨を説明しました。休館中には、予約や取消しの受付について、メールやFAXで対応しました。開館時間や利用人数の制限などについても数回にわたり変更がありましたが、その都度、利用者への連絡や館内およびHPの案内表示を変えるなど、速やかに対応しました。

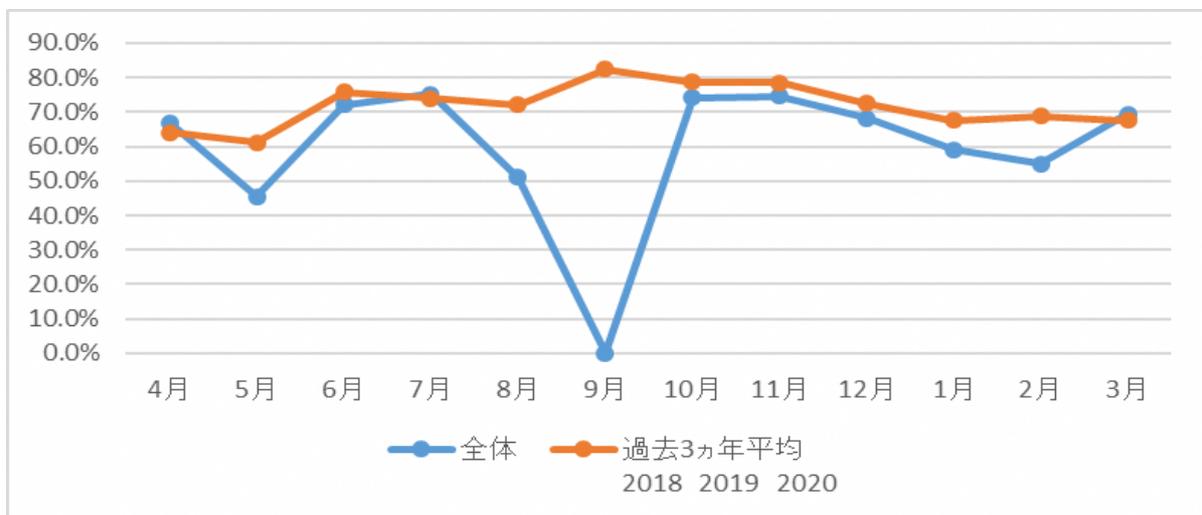
〈利用者数、稼働率の目標と実績〉

開館期間	4/1~4/30	5/1~5/11	6/21~6/30	7/1~7/31	8/1~8/8	-	10/1~10/31	11/1~11/30	12/1~12/28	1/3~1/31	2/1~2/28	3/1~3/31	
開館日数	29	11	9	30	8	0	30	29	27	27	27	30	
令和3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計/平均
利用者数実績	2,723	414	568	2,853	367	0	2,400	3,242	2,355	1,752	1,483	3,613	21,770
稼働率実績	67.0%	45.5%	72.1%	75.2%	51.1%	0.0%	74.1%	74.6%	68.1%	59.2%	54.9%	69.4%	59.3%
2020年度利用者数実績	126	263	1,800	2,289	2,029	2,324	2,795	2,631	3,225	1,251	1,319	2,295	22,347
2020年度稼働率実績	30.5%	20.9%	56.6%	61.6%	58.6%	72.6%	78.4%	78.7%	75.9%	47.6%	50.6%	70.0%	58.5%
2019年度利用者数実績	4,104	3,946	4,823	4,646	3,686	4,980	3,716	3,241	4,620	3,799	4,648	1,905	48,114
2019年度稼働率実績	80.5%	80.8%	85.3%	81.1%	77.3%	87.1%	77.0%	75.0%	71.1%	77.3%	74.0%	50.5%	76.4%
30年度利用者数実績	3,768	4,049	4,388	4,200	4,194	4,455	5,334	4,447	3,416	4,000	4,475	4,095	50,821
30年度稼働率実績	81.4%	81.6%	85.5%	78.8%	80.5%	84.0%	80.5%	82.0%	70.7%	77.9%	81.9%	82.1%	80.6%
29年度利用者数実績	3,921	4,176	4,584	4,313	4,166	4,320	3,695	4,166	3,607	3,395	3,487	4,718	48,548
29年度稼働率実績	82.7%	80.8%	86.4%	79.1%	77.3%	81.7%	78.2%	85.8%	84.2%	81.2%	80.2%	82.3%	81.7%

〈利用者数推移〉



〈稼働率推移〉



A	7-2	サービスの質の確保および向上	7:窓口・サービス
---	-----	----------------	-----------

〈目的〉

ホスピタリティあふれる「スマイルプラス1」の接客を行い、利用者のニーズをつかむことで、ニーズに合った柔軟な対応をする。

〈実施状況〉

●要望の収集

- ・ 苦情の処理体制の構築、ご意見箱の設置
- ・ 利用報告書記載の意見を職員間で共有
- ・ 消毒液の設置

●接遇技術の向上・研修の実施

- ・ 9/22（水）ロジカルシンキング研修 12名

●要望・苦情の反映

- ・ ご意見箱と利用報告書記載の要望・意見について職員間で協議し、利用者への対応改善を図りました。

●PDCA サイクルの実践

- ・ 半期ごとにマニュアルやルール・様式を見直し、ソフトの面からサービスの向上を図りました。



■受付



■ミーティングコーナー市民活動情報



■登録団体ファイル

〈成果〉

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底して行い、安心して利用できる空間づくりに注力しました。また利用者の視点に立った公平で迅速・的確なサービスの向上を図るため、利用報告に書かれた要望・苦情を真摯に受け止め、対応の改善を図りました。利用者の目に留まりやすいミーティングコーナーの一部に、市民活動に関する情報を提供するスペースをつくり、市民活動の現状がより多くの方に届くよう工夫をしました。

利用者に快適にご利用いただくことを優先した結果、利用者アンケートや報告書の意見では、「いつもきれいにしており、安心安全に利用している」「室内の環境が快適であり、大変よかった」「使い易いので愛用させてもらっている」「清潔で気持ちよく利用させていただいている」という意見が得られました。

A	7-3	団体登録の更新	7:窓口・サービス
---	-----	---------	-----------

〈目的〉

団体とのコミュニケーションを図る。団体ヒアリングを行い、利用者満足度を測る。また団体の運営状況やスキル把握に努め、利用者に向けたサービスの向上を図る。

〈実施状況〉

●団体登録の更新手続き

- ・更新対象団体数：464
- ・更新団体数：400
- ・抹消団体数：64（内訳：抹消1団体、未更新63団体）
- ・窓口受付：157
- ・郵送受付：243

〈成果〉

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、更新手続きを簡略化し、窓口だけでなく郵送での受付を行いました。緊急事態宣言発令により、8月9日からの9月30日は臨時休館中したため、更新期間は1ヶ月延長し6月1日から9月30日まで実施しました。

館内掲示やホームページ、郵送物で周知し、郵送での手続きをすすめ、職員間の情報共有も確実に行いました。結果、昨年に比べ郵送での手続きが窓口を上回りました。休館の際、窓口での受付を強く希望される団体には、来館時間をご予約いただき、検温・消毒など感染拡大防止を徹底し速やかに手続きを行いました。また、アンケートの回収率も84.5%（更新済400団体中338団体から回収）と高い数値となりました。

A	7-4	ユニバーサルデザインの推進	7:窓口・サービス
---	-----	---------------	-----------

〈目的〉

利用者に対するサービスの質を「使いやすさ」と「安心」という二つの視点でサービスを見直し、サービスの質の高い施設づくりを行う。利用者ニーズを正確に掴み、ニーズを果たす。

〈実施状況〉

●任意団体用規約例の作成

・登録申請の提出書類である定款・会則について、任意団体向けに作成時のポイントや方法をまとめた一覧を作りました。

●安全性の確保

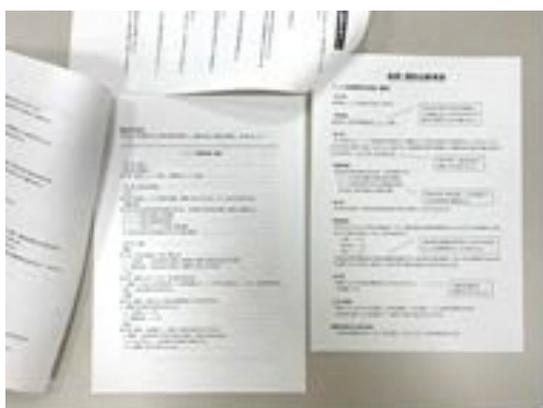
・ミーティングコーナーのブースにあるホワイトボードや机の脚は長く動線を阻んでおり、車いすだけでなく、一般の方も足をひっかけてケガをしてしまうような潜在的なリスクがありました。ホワイトボードの設置個所を変えて、安全に動くことのできるスペースを確保しました。

●動線の確保

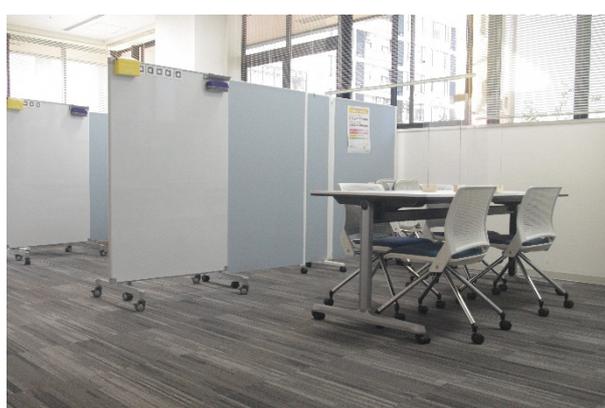
・気軽に滞在できるようにソファやミーティングテーブルなどを配置していましたが、十分な動線が確保できていない部分が見受けられました。使いやすい空間設計になっていませんでした。机やいすなどの数を減らして、安全性を確保した空間づくりを行いました。

〈成果〉

他の公共施設を管理するグループ職員も参加したユニバーサルデザイン研修での学びを活かして館内の課題を抽出し、利用者からの相談や職員の気づきから改善策のヒントを得て施設利用の向上に繋げました。特に危険な個所を排除することは、安心安全な利用をしていただく上で重要です。より一層使い易い施設活用を目指し、今後もユニバーサルデザインの7つの原則に沿って改善をすすめます。



■任意団体用規約例



■安全性の確保

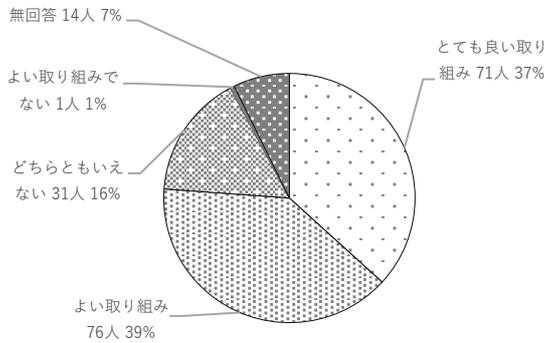
A	7-5	施設機能の活用促進	7:窓口・サービス
---	-----	-----------	-----------

〈目的〉

利用者が「何を望んでいるのか」「何が必要なのか」などのニーズを正確に掴み、すぐに運営に反映できる環境を提供することを目的とします。

〈実施状況〉

- コミネット
 - ・開館時間変更に伴い11月からの新システムへ移行手続き、実施。
- チラシの作成
 - ・開館時間変更に伴い案内チラシの作成、配架。
- 9時から10時まで、11月から3月までの来館者のカウント
 - ・9時から10時までの来館者数（11月～3月）：1,102人
 - ・21時から22時までの来館者数（11月～3月）：1,015人



■9時開館試行の取り組みについて



■開館時間変更のお知らせのチラシ

〈成果〉

11月からの開館時間変更に伴い、コミネットの予約システムを新しい時間区分に対応したシステムへ移行しました。移行作業をする際には手順や方法のマニュアルを作り、担当の職員を決めて実施することでミスをなく作業を行えました。

9時からの開館については、「セミナーが開催しやすくなった」「余裕ができた」など、好意的な意見が見られました。アンケートの結果についても、全体の70%の方が「とても良い取り組み」「良い取り組み」とお答えいただけました。

A	7-6	カスタマーハラスメント	7:窓口・サービス
---	-----	-------------	-----------

〈目的〉

カスタマーハラスメントに正面から向き合うため「カスタマーハラスメント研究会」を立ち上げる。どのような状況に見舞われた際にも毅然とした対応で公平性が保てるように、カスハラ対策マニュアルを整備し、その方策の周知に努める。

〈実施状況〉

● カスタマーハラスメントマニュアルの拡充

・厚生労働省の発行した「カスタマーハラスメント対策企業マニュアル」を参考に以下の項目をマニュアルへ追加しました。

4. 職員への配慮の措置

- (1) 職員の安全の確保
- (2) 精神面への配慮

5. 再発防止のための取組

- (1) 事案発生時の職員への共有
- (2) 事例の活用



■カスタマーハラスメント対策企業マニュアル(厚生労働省)

〈成果〉

職員が安心して窓口業務に従事できるようにとの目的から昨年度作成したカスタマーハラスメント（顧客等からの著しい迷惑行為）マニュアルのさらなる向上を目指して、今年度は厚生労働省が取りまとめた「カスタマーハラスメント対策企業マニュアル」を参考に、項目の追加を行いました。職員のメンタル面への配慮をより厚くし、組織としての対応力の向上に繋がりました。

B : 情報部門の事業

〈事業の目的〉

この事業は、NPO・ボランティア活動をはじめとする市民公益活動に関する情報を収集し、さまざまなメディア（媒体）を活用しながら情報発信を行うことで、あすみんなが市民公益活動に関する情報拠点としての役割を高めることを目的とする。NPO・ボランティア団体をはじめ、市民、地域、企業、大学等、それぞれのターゲットに合わせた情報発信ツールを活用し、適切で効果的な情報提供を目指す。また、情報の受け入れ体制も整え、市民公益活動に関する情報が双方向に行き交う場となるよう「情報体系の確立」をすすめる。

〈事業体系〉

- 1-1. ホームページの運用
- 1-2. ソーシャルメディアの運用
- 1-3. メールマガジンの配信
- 1-4. 情報誌の発行
- 1-5. 情報発信の効果検証

〈事業総括〉

ホームページ、ソーシャルメディア、メールマガジン、情報誌などあすみんなの持つメディアごとの特性に合わせた情報発信を行ないました。

令和3年8月の豪雨の際には災害特設ページを開設しました。昨年度の災害時の情報発信での経験を活かしてボランティアなどの支援を申し出る利用者のニーズに対応した情報を発信しました。災害に関わる情報は被災地現地自治体、社会福祉協議会などを情報源とし、確度の高い情報としてメディアではホームページを選択して発信しました。

ソーシャルメディアではFacebookを中心に運用を行ってきましたが、来年度以降は他のソーシャルメディア（InstagramやLINEなど）の導入も検討しています。そのためFacebookにて他メディアへの展開を念頭に入れたコンテンツを作成・配信しました。

メールマガジンはHTML化を実装しました。メールマガジンに登録するほど市民活動に積極的な購読者に対して、参加に結びつくイベント・ボランティア情報や活動に役立つ助成金情報を、ビジュアルを使ってより強く訴求しました。

情報誌はセンターの他事業との連携を図りました。取材を伴い、団体と深く関わることになるメディアの特性を活かして、センター主催イベントに団体として参加いただき、情報発信以外の部分での展開へつながりました。

各ツール、メディアへの満足度やリーチは低いものではありませんが、あすみんなのSNSを使った情報発信への認知度が低いことが課題です。認知度向上のため来年度以降はSNSを重点的に活用するよう取り組んでいきます。

〈目的〉

登録団体の活動やイベントをはじめ、ボランティア情報や助成金情報など、さまざまな視点から市民公益活動を紹介し、あすみの利用価値の向上や市民公益活動の促進につなげる。

〈実施状況〉

●運営概要

【あすみん】

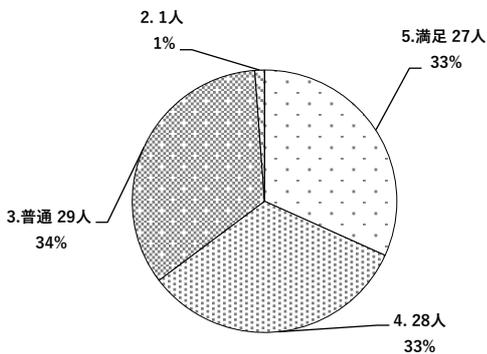
- ・更新回数 469 件
- (内訳) 記事更新件数：82 件
- HP機能・デザイン更新：71 件
- メールマガジン：27 件
- 助成金情報：289 件

【登録団体】

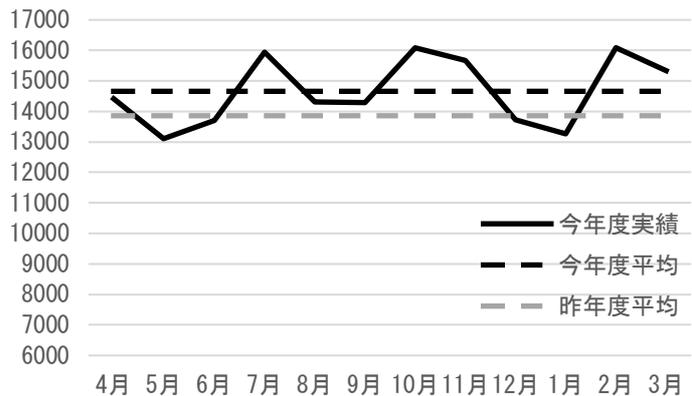
- ・投稿回数（登録団体・イベント）87 件
- ・投稿団体数（イベント）70 団体
- ・投稿回数（登録団体・ボランティア）57 件
- ・投稿団体数（ボランティア）47 団体
- ・閲覧数 175,769PV



■公式ホームページ(TOP)



■利用者アンケートのホームページの満足度



■ホームページ閲覧数推移

〈成果〉

昨年度に引き続き、災害特設ページを令和3年8月の豪雨の際に開設するなど、利用者が必要としている情報を伝えるための工夫をしました。また、新規登録をした団体にHPを活用できるように、新規登録団体交流会ではマイページの利用方法などの説明を継続して実施しました。

新型コロナウイルスの影響により、開館時間などに変更があった際には、TOPページの情報を最新情報に変更し、SNSとの連携をとることで、いち早く利用者に情報を届けることを心掛けました。

また、「ハローソーシャル」などの新しいページの追加を行い、利用者に有益な情報が届く工夫をしました。

B	1-2	ソーシャルメディアの運用	1:メディアを活用した情報発信事業
---	-----	--------------	-------------------

〈目的〉

フェイスブックやツイッターなどの SNS を活用し、利用者に最新のリアルタイムな情報を発信する。

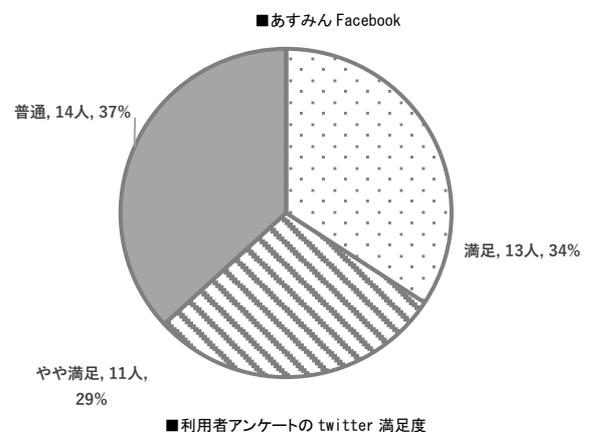
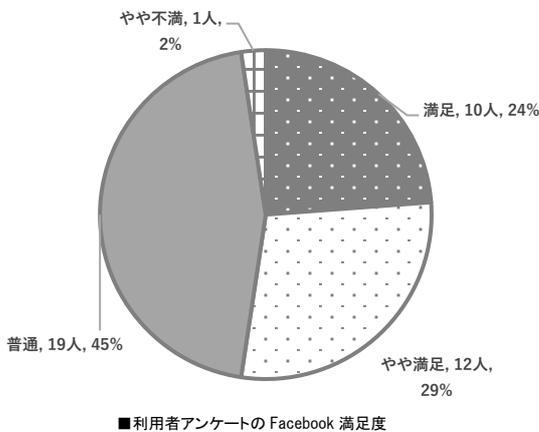
〈実施状況〉

● Facebook

- ・ 日常のセンターの様子や事業の案内、市民公益活動に関する情報などをリアルタイムに掲載。
- ・ 職員が写った写真を活用したり、動画で使い方を発信したりと工夫を施した投稿を行いました。
- ・ 更新回数：592 回
- ・ 記事へのいいね数：9,654 いいね
- ・ 閲覧回数：159,456PV

● Twitter

- ・ ホームページや Facebook と連動した情報を発信。
- ・ 更新回数：495 回
- ・ 閲覧回数：151,556PV



〈成果〉

Facebook では、毎月 30 件の投稿回数を目標にして実施した結果、目標を大きく上回り、更新回数 592 件（月平均 49 件）の投稿となりました。また、記事へのいいね数も前年度比 9% 増、閲覧数も 11% 増という結果となり、昨年度に引き続き増加傾向となりました。今年も新型コロナウイルスの影響は少なからずありましたが、その中でもできることとして Web を通じた情報提供としてソーシャルメディアの運用に取り組んだ成果だと捉えています。年間を通じてリーチ数の高かった情報は、「あすみん講演会（グッドアクティビティフェスティバル）」や「NPO 基盤強化講座」、「先輩 NPO に聞いてみよう」だったことから、あすみん開催イベントに対する期待やニーズが高いことがわかります。また後期から少しずつ新たなコンテンツを加え、情報の整理、棲み分けに取り組み、来年度からは instagram や LINE などにも着手し、各メディアの特性を活かした情報発信を検討していきます。

B	1-3	メールマガジンの配信	1:メディアを活用した情報発信事業
---	-----	------------	-------------------

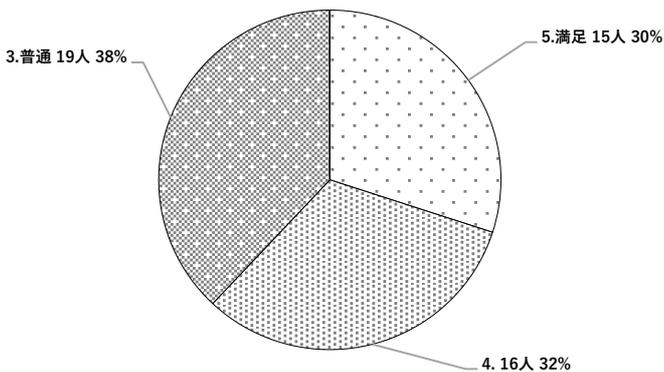
〈目的〉

助成金や講座・イベントなどの情報を定期的に発信し、団体運営の向上や施設利用の促進につなげる。

〈実施状況〉

●詳細

- ・発行日：毎月2回（5日、20日）、臨時号を5月9日、8月6日、9月14日、2月15日に配信
（新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館についてのお知らせ、グッドアクティビティフェスティバル開催についてのお知らせ）
- ・発行回数：28回
- ・発行部数：58,202部
- ・満足度：五段階評価中「5満足」「4」の合計が62%
（利用者アンケート：情報ツールの満足度「メールマガジン」）



■利用者アンケート情報ツールの満足度：メールマガジン



〈成果〉

2月5日号より、新しいメール配信システム（ブラストメール）へ移行し、これまでのテキストメールよりも視覚的に情報を届けられるようになりました。また、メール内のテキストを極力減らし、興味を持った情報のwebページへ直接飛んでいただけるように工夫し、読者が欲しい情報に容易にアクセスできるようになりました。

B	1-4 情報誌の発行	1:メディアを活用した情報発信事業
---	------------	-------------------

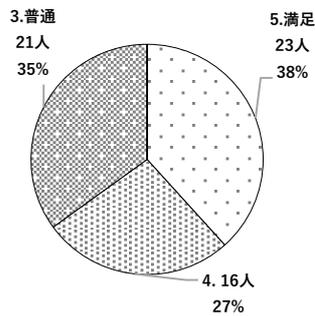
〈目的〉

季刊で発行する情報誌を自主制作し、特集の記事やインタビューを通して、市民公益活動に関する情報や意義を広く伝え、福岡における市民公益活動の活性化や理解の促進を図る。

〈実施状況〉

●概要

- ・発行回数：年4回季刊での発行 6月、9月、12月、3月
- ・発行部数：各3,000部を印刷。
- ・送付部数：3,191部（登録団体のほか、全国のサポートセンターなどに配布）



■利用者アンケート 情報誌 満足度

〈成果〉

NPO・ボランティア団体に向けて、センター機能の周知や市民公益活動に関する情報提供を目的とした情報誌「あすみんノート」を年間4回発行しました。

育児・介護休業法が改正されるタイミングで、父親の子育てや働き方の支援活動を行っている団体の特集をするなど、社会の関心が高いテーマを届けることに努めました。

26号では取材団体がGAFに参加するなど、センターとの繋がりをつくることができました。27号では開催することはできませんでしたが、他事業「先輩NPOに聞いてみよう」と連携して発行もしました。

あすみんノートの発行に合わせてFacebookのトップバナーを作成・変更し、より多くの方に情報が届くように工夫しました。



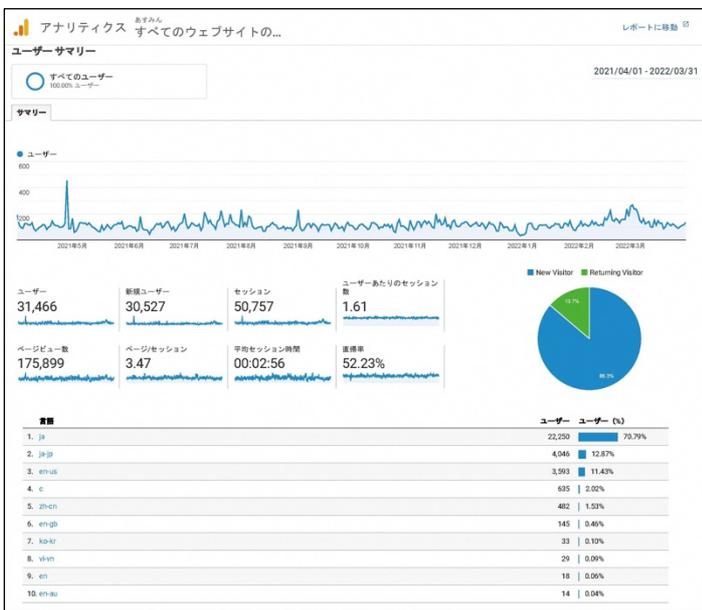
■あすみんノート(24号～27号表紙)

〈目的〉

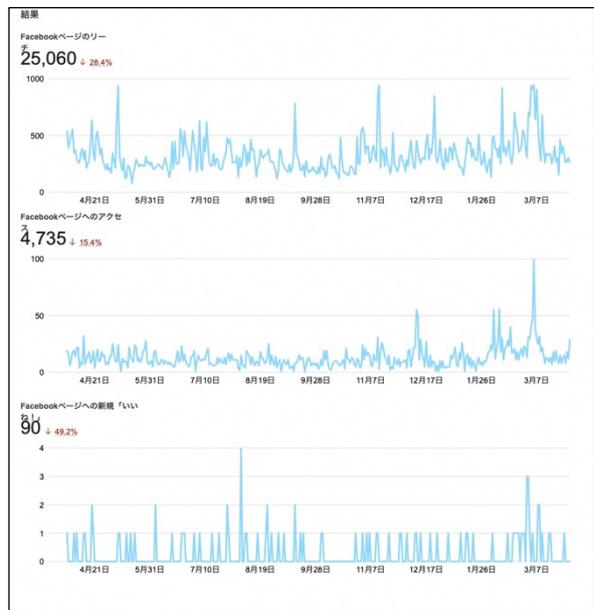
各種広報ツールの効果測定を通して情報発信の効果を検証し、対象者のニーズを捉えた十分な情報提供を促進する。

〈実施状況〉

- アクセス解析の実施
 - ・ ホームページや SNS の効果測定やデータ収集を行う
- アンケート解析の実施
 - ・ メルマガ、チラシ、情報発信ツールの効果測定やデータ収集を行う
- 事業や講座ごとのアンケート解析の実施
 - ・ 利用者がどのメディアを通して事業や講座に参加したかを解析



■ あすみんホームページへのアクセス解析



■ あすみん Facebook へのアクセス解析

〈成果〉

あすみんは比較的高齢な方の利用の多い施設ではありますが、オンライン化への対応が情報発信にも求められているのがわかる結果となりました。

広報戦略としてボランティアフォーラムはチラシを作成せずに WEB での情報発信を行いました。重点的に SNS の投稿を行った 2 月、3 月の Facebook ページのリーチ数は年平均に比べ 2 月 117%、3 月 137%（年間最大値）という結果となりました。

新型コロナウイルス感染症感染拡大により講演会・映画上映会は実会場での開催と、オンライン会議を活用したハイブリッド開催となりました。広報からイベント参加までがオンラインで完結する初めてのケースとなりました。講演会はオンラインでの参加が半数を占め、インターネットを通じた広報とオンラインイベントの親和性が実際のイベント開催と広報から再確認できました。

〈事業の目的〉

センターの活用につながる情報発信や提供できるサービスのPRを通し、施設の利用促進を図る事業である。団体のニーズに応える情報体系の確立を進め、利用団体の情報発信力の向上をサポートする。

〈事業体系〉

- 2-1. 情報を通じた施設利用促進
- 2-2. 団体・活動の広報サポート
- 2-3. チラシ・パンフレットの作成・配布
- 2-4. プレスリリース・パブリシティの促進

〈事業総括〉

新型コロナウイルス感染拡大に伴い臨時閉館・開館時間短縮が行われ、物理的にあすみの施設を利用できる機会が減少しました。館内でのポスターの掲示やチラシの配布では十分にイベント参加などの施設利用を促すことが難しくなりました。

ホームページやSNSでは従来から情報を発信していましたが、それに加えてプレスリリースの送付や外部のイベント紹介サイトへの書き込みを積極的に行いました。掲載されたイベントへは問い合わせや申し込みが増え、メディアの取材を受けることができました。

自前のメディアだけではなくマスメディアへの掲載や、事業に関わる団体のSNSでのあすみの情報をシェアしてもらうなどの相互協力を得ることも施設の利用促進につながるものとして、今後は積極的に活用します。

B	2-1	情報を通じた施設利用促進	2:施設利用促進事業
---	-----	--------------	------------

〈目的〉

市民公益活動に関心のある市民に、センターの機能や団体登録のメリットを PR する。登録団体に向けてセンターの活用方法を PR する。センターが実施する講座等で設備の使い方や団体のサポート策を説明し、施設の利用促進を促す。

〈実施状況〉

●施設活用の PR

- ・パークサイドギャラリーを利用して、ハジメのイッポとあすみんノートのポスターを作成し展示
- ・HP や SNS、館内掲示を使って、開館時間の変更に関する情報を告知
- ・講座やイベントの中であすみんを紹介
- ・効果的な情報発信を狙って、情報コーナーの配置を変更
- ・毎月、デジタルサイネージの情報を更新



■パークサイドギャラリー

●講座やイベントの PR

- ・情報コーナーの壁面を利用し、講座やイベントの大判ポスターを掲示
- ・Facebook のイベントページを活用した講座やイベントの配信
- ・講演会と映画上映会の告知動画を作成し館内で放送
- ・ビル1階のエレベーター前に案内板の設置（西鉄所有の案内板の利用）

●登録団体へメールの配信

- ・メルマガとは別に、イベント情報メールを希望する登録団体に、あすみん主催の講座やイベント情報を配信

●他媒体の活用

- ・毎日新聞にカレンダー配布の紹介記事掲載
- ・西日本新聞 me にイベント情報を掲載
- ・中村学園大学の HP に、在学生向けのハジメのイッポの案内を掲載

〈成果〉

新型コロナウイルス感染拡大に伴い臨時閉館・開館時間短縮が行われ、物理的にあすみんの施設を利用できる機会が減少しました。館内では引き続き、情報コーナーやデジタルサイネージなどを使って講座やイベントの情報を発信する一方で、来館できない利用者に向けてもオンライン参加ができるイベントがあることをHP や SNS を使って情報発信しました。

また、新しく「NPO マップ」「ふくおか生涯学習ひろば」に登録を行ったほか、西日本新聞のオンライン媒体「西日本新聞 me」に講座情報を掲載していただき、より多くの市民に情報発信することができました。

B	2-2	団体・活動の広報サポート	2:施設利用促進事業
---	-----	--------------	------------

〈目的〉

登録団体の活動を案内・支援する場所として、情報スペースの壁面を利用し、ポスターの掲載やチラシ・パンフレットの配架を行う。SNS を使い、登録団体の活動の広報をサポートする。

〈実施状況〉

●配架・掲示の利用受付

- ・館内壁面などに登録団体内のイベント広報物を配架・掲示
- ・情報（チラシ）受付件数：登録団体や関連機関からの設置要請に対応
- ・受付件数：839 件（登録団体：171 件、市民活動支援センター：157 件、福岡市関連情報：256 件、助成金・事業公募など：69 件、その他：186 件）
- ・登録団体のチラシ・パンフレットの掲示・配架の利用状況：77 団体（実数）

●SNS での登録団体の活動紹介件数

- ・Facebook での団体紹介件数：200 件
- ・Twitter での団体紹介件数：163 件



■新しい表記のサイン

■Facebook を活用した団体情報の拡散

〈成果〉

チラシの配架方法を見直しました。分類別のサインは、日本語表記だけではなく英語表記も加え、外国人にとってもやさしく、誰にでもわかりやすく案内できるよう工夫しました。館内でのチラシ配架だけでなく、デジタルメディアを使った情報発信についても利用を促すため、新規登録団体交流会の時に、あすみん HP 内の登録団体用マイページについて紹介し、使い方などを説明しました。団体がマイページに投稿したイベント情報やボランティア募集情報をメールマガジンや SNS でも定期的に紹介し、広く市民に情報を提供することができました。登録団体のチラシ受付件数は、昨年度より 13 件増え 171 件になりました。

B	2-3	チラシ・パンフレットの作成・配布	2:施設利用促進事業
---	-----	------------------	------------

〈目的〉

利用案内に関するチラシを作成、配布する。施設紹介に関するパンフレットを効果的に配布する。

〈実施状況〉

●作成件数（部数）：合計 36 件（21,800 部）

作成部数内訳

- ・チラシ：9,800 部
 専門相談チラシ：820 部、NPO 入門講座チラシ：750 枚、ボランティア講座チラシ：800 部、
 NPO 広報講座チラシ：100 部、先輩 NPO に聞いてみようチラシ：1200 部、あすみん交流会チラシ：100 部、
 あすみんステージチラシ：1470 部、あすみんミュージアムチラシ：1100 部、
 災害ボランティアワークショップチラシ：100 部、学生ボランティアミーティングチラシ：200 部、
 ハジメのイッポチラシ：700 部、ハジメのイッポ参加団体募集チラシ：1160 部、G A F 全体チラシ：200 部、
 NPO 基盤強化講座チラシ：1000 部、利用時間変更のお知らせチラシ：100 部
- ・パンフレット他：12,000 部
 あすみんノート：12,000 部

●配布件数（部数）：合計 30 件（7,399 部）

配布部数内訳

- ・チラシ：5,178 部
 専門相談チラシ：513 部、NPO 入門講座チラシ：442 部、ボランティア講座チラシ：51 部
 NPO 広報講座チラシ：40 部、先輩 NPO に聞いてみようチラシ：607 部、あすみんステージチラシ：647 部、
 あすみんミュージアムチラシ：600 部、災害ボランティアワークショップチラシ：56 部、
 学生ボランティアミーティングチラシ：10 部、ハジメのイッポチラシ：531 部、
 ハジメのイッポ参加団体募集チラシ：924 部、NPO 基盤強化講座チラシ：719 部
 (以下 6 種は配布のみ実施)
 NPO 法人設立説明会チラシ：5 部、会計事務個別相談チラシ：5 部、資金調達相談チラシ：5 部、
 あすみん夢ファンドチラシ：4 部、My ページ投稿マニュアルチラシ：10 部、あすみんノート関連チラシ：10 部
- ・パンフレット他：3,351 部
 施設パンフレット：160 部、あすみんノート：3,191 部

〈成果〉

- ・チラシ配布割合（配布部数/作成部数）：52.44%
- ・パンフレット他（あすみんノート）配布割合：26.60%

登録団体や関連施設へのあすみんノートの発刊の便りや、あすみんでの講座・イベントの際に配布しているチラシの割合は約 5 割でした。残りの部数については、チラシの配架スペースや普段の接客の際に配布することで、館内外に広く情報を伝えることができました。あすみんノートの配布割合について、配布する対象の団体や施設の数を増やすことで、今後の数値の上昇を図っていきます。

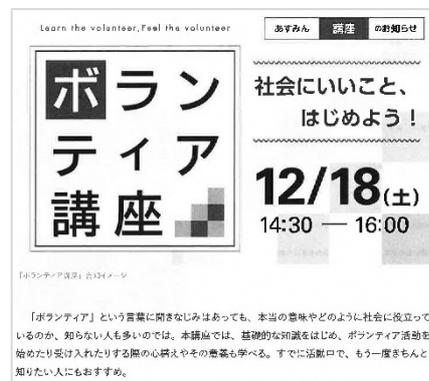
B	2-4	プレスリリース・パブリシティの促進	2:施設利用促進事業
---	-----	-------------------	------------

〈目的〉

講座やイベントの開催時などにメディア各社にプレスリリースを送付し、福岡市の市民公益活動を広く市民に伝えることで、あずみんの来館・利用促進を図る。

〈実施状況〉

	名称	リリース先	媒体	結果	
11月	災害ボランティアワークショップ	朝日新聞	紙面	掲載	
		15件	紙面・ラジオ・テレビ	—	
12月	NPO 広報講座	西日本新聞 me	Web	掲載	
	NPO 基盤強化講座	西日本新聞 me	紙面	掲載	
		朝日新聞	紙面	—	
		読売新聞	紙面	—	
		日経新聞	紙面	—	
		毎日新聞	紙面	—	
ボランティア講座	西日本新聞 me	Web	掲載		
2月	グッドアクティビティフェスティバル（全体）	西日本新聞 me	Web	2/24 1件として 掲載	
	” （基調講演）	西日本新聞 me	Web		
	” （映画）	西日本新聞 me	Web		
	” （学生ボランティアミーティング）	西日本新聞 me	Web		
	” （あずみんステージ）	西日本新聞 me	Web		
	” （先輩 NPO に聞いてみよう！）	西日本新聞 me	Web		
	” （全体）	毎日新聞社	紙面		—
	” （全体）	西日本新聞社	紙面		—
3月	” （映画、展示）	読売新聞	紙面	—	
	ボランティア講座（4/19分）	西日本新聞 me	Web	掲載	



■西日本新聞 me

〈成果〉

■毎日新聞

今年度も様々な事業でテレビ局や新聞社から取材の申し込みがありました。特にこちらからのプレスリリースによって、新聞社の Web 版への掲載案内があり、多くの情報掲載を行うことができました。

〈事業の目的〉

社会のニーズに応えるさまざまな視点に立った情報発信を行なう。これからの市民公益活動のあり方について、新たな時代に即した価値観を紹介。

〈事業体系〉

- 3-1. 図書・資料の収集および情報提供
- 3-2. 助成金情報の収集
- 3-3. ボランティア情報の提供
- 3-4. ハローソーシャル
- 3-5. 市民活動ナレッジバンク

〈事業総括〉

情報コーナーのリニューアルを行い、市民公益活動についてより効果的な情報発信ができるよう努めました。オンラインでの情報発信にも力を入れ、ハジメのイッポだけでなく、ハローソーシャルもホームページから見られるようになりました。市民公益活動に関する様々な情報を提供できるよう、市民活動ナレッジバンクの実装と運用に向けての調査・検討を行いました。

また、助成金情報を求める方が増えており、相談対応から助成金申請につながる事例もありました。ニーズに合わせた情報収集と発信が求められています。

B	3-1 図書・資料の収集及び情報提供	2:施設利用促進事業
---	--------------------	------------

〈目的〉

登録団体や市民公益活動に興味がある市民に向けて、新聞、書籍、雑誌等に掲載された社会課題やNPO・ボランティア関連情報を収集・提供し、市民公益活動の周知・推進に役立てる。

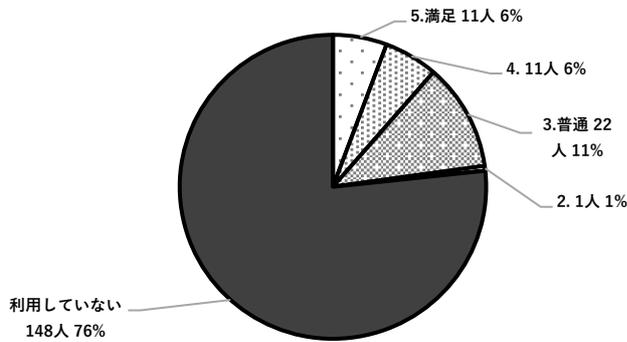
〈実施状況〉

●年間購読： 2誌

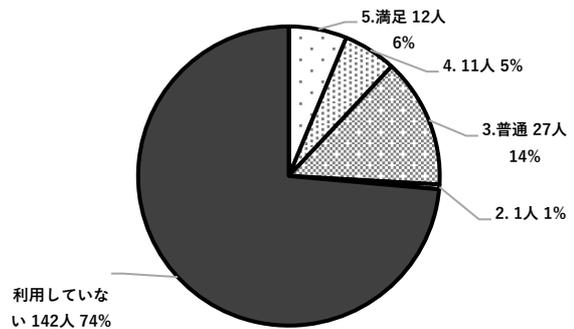
「ウォロ」「ソトコト」

●図書購入数：4冊

- ・「パパとママの育児戦略」NPO法人ファザーリング・ジャパン
- ・「これからの「社会の変え方」を、探しにいこう。
——スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー ベストセクション10」SSIR Japan
- ・「ガチガチの世界をゆるめる」澤田智洋
- ・「芸術文化と地域づくり——アートで人とまちをしあわせに」古賀弥生



■図書 満足度



■新聞等 満足度



■書籍の購入・紹介



■ジャンル別のチラシラック



■新聞3紙・市政だよりの配架

〈成果〉

新聞・書籍の配架、地域活動や公民館活動に関する情報の収集などを行いました。利用者の視点に立って館内の情報の配置を再検討し、本棚やラックのレイアウトを変更しました。より直感的に情報を探すことができるよう、チラシラックをジャンル別に分類・色分けしました。また、全国の市民活動センターの情報誌と企業のCSRレポートの配架方法を見直し、より効果的な情報提供ができるよう準備を進めています。一方でアンケートの結果より「利用していない」の回答が7割以上であることから、適切な利用方法を周知できていないという課題も考えられます。引き続き利用者の視点に立ちながら、利活用しやすいコーナーづくりに取り組みます。

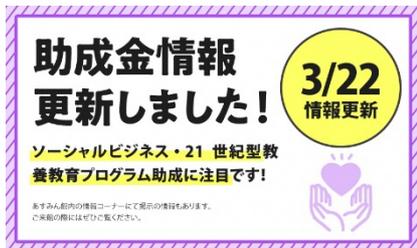
B	3-2	助成金情報の提供	2:施設利用促進事業
---	-----	----------	------------

〈目的〉

全国から助成金・寄付金・クラウドファンディングの情報を収集し、その体系化と見える化を図る。
HP や SNS、掲示板を活用した情報提供を行う。

〈実施状況〉

- 助成金情報を収集する（毎週火曜日）
 - ・火曜日の定期収集日以外にも、メールや郵送物からの収集を行い、年間 69 回、411 件の収集結果となりました。
- 館内に助成金情報を掲示する（毎月 5・20 日更新）
 - ・8 月の臨時閉館月以外、毎月 2 回の掲示を行い、276 件の情報を提供しました。
- 館内に寄付金・クラウドファンディング情報を掲示する（随時）
 - ・身近で必要とされている寄付金・クラウドファンディングの情報を提供しました。
- 助成金情報を SNS（Facebook）に投稿する（毎週金曜日）
 - ・年間を通して 81 回、85 件の情報提供を行いました。
- 助成金情報をあすみん HP に投稿する（毎週水曜日）
 - ・平均すると毎月 4 回の投稿を行い、年間 338 件の情報提供を行いました。
 - ・新規投稿の情報のみをみやすいように、スライダーの利用やイベント情報への投稿も並行して行いました。
- 助成金申請・寄付金についての相談対応（随時）
 - ・年間 31 件の相談に対応しました。



■助成金情報バナー



■寄付情報コーナー

〈成果〉

コロナ禍で、活動に助成金や寄付金・クラウドファンディングの情報を求める方が増えました。来館された方は掲示情報を熱心に見られており、館内での情報提供の重要性を改めて実感するものとなり、助成金やクラウドファンディングの相談対応も増えており、今年度はあすみに相談しながら実際に助成金申請までたどり着いた団体が 3 組ありました。それらの経験を通してニーズをつかみ、求められる情報の収集や、見やすい掲示・Web を通した紹介などのよりよい方策を見出すことができました。

B	3-3	ボランティア情報の提供	2:施設利用促進事業
---	-----	-------------	------------

〈目的〉

登録団体や市民公益活動に興味がある市民に向けて、新聞、書籍、雑誌等に掲載された社会課題やNPO・ボランティア関連情報を収集・提供し、市民公益活動の周知・推進に役立てる。

〈実施状況〉

- ハジメのイッポの周知
 - ・パークサイドギャラリーにてポスターを掲示
 - ・中村学園大学のHPに在学生向けの情報を掲載
- 公民館だよりのボランティア募集情報の掲示



●ボランティア募集チラシの配架

月	配架件数	うち登録団体数
4月	※カウントなし	-
5月	※カウントなし	-
6月	※カウントなし	-
7月	※カウントなし	-
8月	14	6
9月	13	5
10月	11	3
11月	12	3
12月	12	4
1月	11	5
2月	12	6
3月	13	5

■公民館だよりの切り抜き



■ボランティア募集情報

- ホームページでの情報発信
 - ・ハジメのイッポのページを更新 45件掲載 (3月末時点)
 - ・ハローソーシャルのページを作成 10件掲載 (3月末時点)
 - ・登録団体のボランティア募集投稿 57件/47団体



■ハローソーシャル

〈成果〉

ボランティアの方に公民館だよりに掲載しているボランティア情報を切り抜いていただき、各区のボランティア募集情報をまとめた掲示物を館内に掲載しました。また、団体や各施設から依頼のあったボランティア募集チラシを集約し、ラックに配架しました。またハジメのイッポからハローソーシャル、その他ボランティア募集の掲示までの館内の動線を見直し、より情報にたどり着きやすいレイアウトに変更しました。また、あすみんのホームページにて、ハジメのイッポ・ハローソーシャルの情報を配信しました。登録団体によるボランティア募集の投稿は、昨年度とほぼ同数となりました。

B	3-4	ハローソーシャル	2:施設利用促進事業
---	-----	----------	------------

〈目的〉

NPO、ボランティア団体等の求人について情報面で支援し、市民活動に参加したい人と活動とのマッチングを図る。来館者は興味のある募集にあずみんを通すことなく気軽に応募できるよう、募集元団体の連絡先を掲載するなど情報を整備する。

〈実施状況〉

●求人票・志人票の掲示

- ・年間掲示件数（延べ）：530 件
求人票：466 件
志人票：64 件

●新規情報の収集

- ・新規情報件数
求人票：8 件（5月1件、8月1件、12月1件、2月5件）
志人票：3 件（10月1件、3月2件）

〈成果〉

昨年度までグッドアクティビティフェスティバルで実施してきた「ハローソーシャル」を、今年度は事業として引き継ぎ、今年度も求人票と志人票の掲載を行いました。

利用団体に対して継続掲示の依頼と掲載内容の確認をしましたが、その際、数団体より「ハローソーシャルを見てお問合せがあった」という報告を受けました。ボランティア活動に参加し今も継続的に活動している方や、インターンへの申し込みなど、ハローソーシャルをきっかけに市民活動を始めた方がいる事が分かりました。

ハローソーシャルの掲示を通して市民に各団体の情報を届けることができ、市民活動に参加したい人と市民活動団体とのマッチングを図ることができました。



■ハローソーシャル:案内パネル



■館内掲示の様子

B	3-5	市民活動ナレッジバンク	3:市民公益活動の情報発信
---	-----	-------------	---------------

〈目的〉

市民公益活動に関する様々な情報を収集し、提供する。用語などの情報を紹介するためのツール「市民活動wiki（仮）」の企画・実装を進める。全国の市民活動従事者との連携を進め、提供する情報内容の向上につなげる。

〈実施状況〉

●情報の収集・提供方法についての企画づくり

- ・市民公益活動に関する情報の収集から紹介までの流れと、提供の方法について検討した。市民活動ナレッジバンクの実装に対して、どのようなデジタルツールを使うことが望ましいかを比較・検討した。

●市民公益活動に関係する用語の収集および外部サービスについての調査

- ・市民公益活動に関係する用語をインターネットを中心に100個収集・整理し、「市民活動wiki（仮）」サイトのデータベースづくりに向けて準備を行った。
- ・wikiを提供している外部サービスを利用した場合について、市民活動ナレッジバンクの仕組みの実装や記事の投稿・運用について調査を行った。

		意味	URL
1	CSR	企業の社会的責任とは、企業が倫理的観点から事業活動を通じて、自主的に社会に貢献する責任のことである。	https://ideasforgood.jp/glossary/csr/
2	CSV	企業における経済的な価値創出だけでなく、社会と共有の価値を創造していくことが目指される。CSVは社会価値を生み出すために様々な活動を自らが積極的に起こし、協業していく価値創造の実践が基本。	https://www.amita-oshiete.jp/qa/entry/Q01467.php
3	DBO	DBOとは、Design Build and Operateの略で、民間事業者が対象施設の設計（Design）と建設（Build）及び運営（Operate）を一括して行う方式で、一般に既存施設の改築更新整備を行う場合に適用されます。通常の公共工事発注は、設計と建設は分離発注され、工事完了後に管理運営を発注しますが、こうした発注を分離せず、一括して一者に発注する方式です。	https://www.japanwater.co.jp/concession/yougosu/popsuho/dbo
4	DMO	DMOとは、観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。Destination Management Organization（デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション）の頭文字の略。DMCIはDestination Management Company（デスティネーション・マネージメント・カンパニー）の略。 観光庁が規定した日本版DMOは以下の通り。 『地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人』	https://www.tourism.jp/tourism-database/glossary/dmo/
5	DX	DX（Digital Transformation / デジタルトランスフォーメーション）とは、進化したIT技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革させるという概念のことです。	https://www.i-learning.jp/topics/column/useful/digitaltransformation.html
6	LGBTQ	実は、LGBTがレズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーそれぞれの頭文字をとっているように、「Q」も「クエスチョニング」「クィア」という2つの言葉の頭文字をとっています。	https://jobrainbow.jp/magazine/queerandquestioning
7	LOHAS（ロハス）	LOHAS（ロハス）とは、「Lifestyles of Health and Sustainability」の略語で、直訳すると「健康的で持続可能な生活様式」	https://ideasforgood.jp/glossary/lohas/
8	NGO	政府間協定によらずに設立された国際協力組織。非政府組織。	https://www.benesse-elo.com/special/global/884
9	NPO	民間の、営利を目的とせず社会的活動を行う団体。	https://www.npo-homepage.go.jp
10	PFI	公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うことで、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図るという考え方で。	https://www.pfikoai.or.jp/about/

■市民公益活動に関係する用語

〈総括〉

市民活動ナレッジバンクの実装と運用に向けて、デジタルツールの利用を中心に、情報の収集から提供・管理の流れを企画し、外部のwiki作成サービスやWEBサイトなどの活用について調査・検討を行いました。また、インターネットを活用した情報の収集・整理を行い、データベースの基盤を構築しました。

C : 事業部門の事業

〈事業の目的〉

NPO・ボランティアに関する一般的な相談から、さらに専門的な相談まで、幅広く対応し市民公益活動の推進へとつなげる。社会課題の多様化により、相談の対象者も地域、行政、企業、大学などの多様な主体へと広がっているため、相談内容を整理・解析しながら、そのニーズに応える。また、利用者のニーズを把握できる重要な事業と位置づけ、相談者への支援内容の向上を図るとともに各種事業へと反映させる。

〈事業体系〉

- 1-1. 一般相談
- 1-2. 専門相談
- 1-3. 会計・税務個別相談

〈事業総括〉

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動の自粛を続けている団体が見られました。前年度と異なっていたのは、ただ活動を休止するというのではなく、Zoomなどのオンラインツールを使用し、顔を合わせなくてもできる活動をする団体が増えたことです。また、「オンライン勤務になったことで、自由になる時間にボランティア活動をしたい」という相談も増えました。一般相談は、53件（15%）増加し、内訳を見ると、電話での相談が来館の2倍の件数となり、コロナ禍でも相談事業が必要とされ、利用者の役に立っていることが分かりました。専門相談については、今年度も引き続きあすみん職員を相談員として配置しました。オンラインでの対応も引き続き行い、対面と遜色のない対応ができました。個別対応を希望される個人や団体が増えてきている傾向があり、定例日以外の日に専門相談を受けることも増えています。

C	1-1	一般相談	1:市民公益活動に関する相談
---	-----	------	----------------

〈目的〉

わかりやすい相談対応を行い、市民公益活動を始めるきっかけづくりや適切な案内を行う。

〈実施状況〉

- 相談内容
 - ・施設利用案内 ・NPO等の団体情報の提供
 - ・ボランティア活動紹介 ・行政等の各種機関の窓口紹介
 - ・団体運営に関する相談 ・各種事業案内など
- 相談対応
 - ・対応スタッフ：12名（2021年3月末時点）
 - ・要望があれば随時対応
 - ・来館者には受付窓口またはミーティングスペースにて対応
- 相談件数
 - ・407件（月平均34件の相談対応、相談目標件数：400件）
 - ・相談件数のうち、電話66%、来館33%
- 対応件数分類
 - ・来館：135件 ・電話：267件 ・メール・FAX：5件

相談種類別集計	
種類	件数
あすみん業務案内	16
要望・提案	17
利用登録	30
団体情報	59
ボランティア情報	89
ボランティア・NPOとは	7
NPO法人関連情報	15
NPO法人設立手続	15
団体運営	41
助成金・寄付	30
事業・講座運営	13
広報活動	15
共働	3
その他	57
合計	407

相談者の主体別集計	
主体	件数
一般	182
NPO・ボランティア団体	156
行政	17
自治組織	1
企業	30
学校	9
その他	12
合計	407

〈成果〉

今年度も緊急事態宣言による臨時休館があり、前半は電話による相談が多くありました。また相談内容については、昨年度に引き続き、団体存続や助成金、総会開催など団体運営に関する内容が多く Zoomの接続方法や、オンライン会議の開催方法など、Webを利用した会議の運営方法に関するお問合せが増加しました。緊急事態宣言が終わり、団体活動が再開してからは「ボランティアに参加したい」という相談や、「困っている人に寄付をしたい」という内容の相談も増え、休館もありましたが例年を上回る相談件数となりました。

C	1-2	専門相談	1:市民公益活動に関する相談
---	-----	------	----------------

〈目的〉

NPO 法人化や多様な主体との共働による地域課題の解決、助成金等の申請、広報・情報発信、人材発掘・育成等に関して、専門的な知識が必要な団体に向けて相談対応を行い、活動を支援する。開催日を決め定期的を実施する他、要望に応じて随時対応する。融資などの資金に関する相談にも随時対応する。

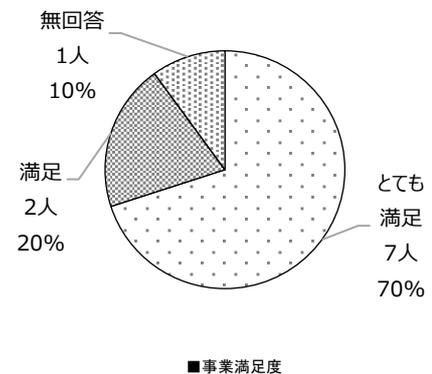
〈実施状況〉

●相談の概要

- ・対象：NPO・ボランティア団体
- ・場所：会議室
- ・設定枠：36 枠（月 1 回×3 枠）
- ・相談件数：22 件（内オンライン件数：4 件）
- ・相談者数：35 名
- ・アンケート回収：10 票
- ・満足度：とても満足、満足 9 票（90%）（目標満足度 60%）

●詳細

- ・実施日：毎月第 3 水曜 18 時～20 時 50 分 他（22 件）
- ・相談員：あすみん職員



●資金調達相談

- ・相談件数：1 件（内オンライン件数：0 件）
- ・参加者数：1 人

〈成果〉

前年度に引き続き、あすみん職員が相談員の役割を担いました。また、オンラインでの対応も行い、定例の第 3 水曜日に来館できない方には、相談者の希望日時に合わせて受け付ける配慮ができました。相談者の満足度は「とても満足」「満足」併せて 90%となっており、あすみん職員の対応も満足度の高いものとなっています。相談対応については、相談内容に合った専門性（広報、事業運営、寄付やクラウドファンディングなど）を持つ職員が対応しました。

C	1-3	会計・税務個別相談	1:市民公益活動に関する相談
---	-----	-----------	----------------

〈目的〉

専門的な知識の中でも、とくに NPO の会計・税務に関する相談対応を行い、団体の活動基盤の整備や自立的・安定的な運営に役立てる。

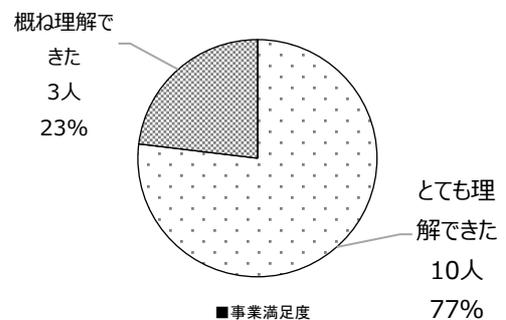
〈実施状況〉

●相談の概要

- ・対象：NPO・ボランティア団体
- ・場所：会議室
- ・相談件数：16 件（目標件数：22 件）（内オンライン 4 件）
- ・参加者数：17 名
- ・アンケート回収：13 票
- ・満足度：とても理解できた、概ね理解できた 13 票（100%）

●詳細

- ・対応内容：助成金や謝金の会計処理、収益・非収益事業について、法人税について ほか
- ・実施日：毎月第 1 金曜日 3 時 10 時 30 分～13 時 30 分
- ・相談員：NPO 会計税務支援福岡
- ・福岡市と共同開催



〈成果〉

「会計を担当することになったが、よくわからない」、または「NPO 法人を設立したばかりで何から始めたらいいか分からない」など、NPO 会計の基礎的な部分を教えてほしい方を主な対象者として、日頃の帳簿の管理方法、助成金・寄付金の会計処理方法、決算書の作成について、書類の書き方などを資格を有する専門家が的確にアドバイスしました。

NPO の会計には、普通の会計とは異なる特殊性があるため、参加者数は少ないものの、専門相談として欠かせないコンテンツとなっています。また、職員も「NPO 法人会計力検定」を受験することで、NPO の会計・税務に関する基本的な知識の向上に努めました。

〈事業の目的〉

NPO・ボランティア団体や活動を始めたい市民を対象に、市民公益活動に関する基礎的な情報や活動基盤の整備、自立的・安定的な運営に役立つ情報などを提供し、団体の運営能力の強化を図ることを目的とする。

〈事業体系〉

- 2-1. NPO 入門講座
- 2-2. ボランティア講座
- 2-3. NPO 基盤強化講座
- 2-4. NPO 広報講座
- 2-5. NPO 法人設立説明会

〈事業総括〉

昨年度に引き続き、研修及び講座にあたっては、新型コロナウイルスの影響を鑑みながら実施しました。特に後半の講座にあたっては、オンライン配信やハイブリッド開催を取り入れて、なるべく中止しない方向性で進めました。結果として、オンラインからの受講を希望する声も少なからず、あすみんへの事業へのニーズが汲み取れました。特にオンライン開催を取り入れたことにより、講師もリモートで参加できるという利点は、全国に講師依頼をすることができるため、事業の幅が広がりました。また、講座への理解を深めるために、参加者同士で話あってみるというシンキングタイムがオンラインではなかなかリアルのようにはいかないという難しさ・課題も見分かりました。ハイブリッドでも講座の開催というのは来年度以降スタンダードなスタイルとなってくることは十分に予想されるため、今回見つけた課題について改善策を模索しながら、受講者の理解と満足につなげていきます。

C	2-1	NPO 入門講座	2:市民公益活動に関する研修及び講座の実施
---	-----	----------	-----------------------

〈目的〉

NPO に関心のある市民や団体を対象に、NPO に関する基礎知識や、求められる社会背景などについて理解してもらおう。

〈実施状況〉

● 講座の概要

- ・ 対象：NPO の基礎を学びたい団体や市民
- ・ 各回定員：20 名
- ・ 場所：セミナールーム BC
- ・ 参加者数(全 4 回合計)：37 名 (うちオンライン 11 名)
(目標参加者数：40 名)
- ・ アンケート回収：36 票
- ・ 満足度：とても理解できた、概ね理解できた 35 票 (97%)
- ・ 実施回数：4 回

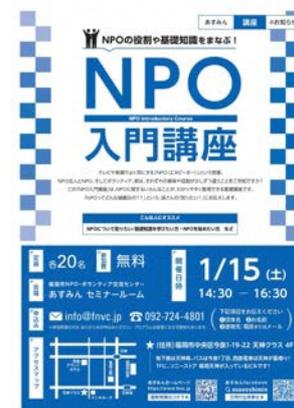
- 7/20 (火) 19 時～21 時 (参加者 18 名) (リアル開催)
- 9/18 (土) 14 時 30 分～16 時 30 分 (参加者 9 名) (オンライン開催)
- 11/16 (火) 19 時～21 時
(参加者 7 名※うちオンライン 2 名) (ハイブリッド開催)
- 1/15 (土) 14 時 30 分～16 時 30 分 (参加者 3 名) (リアル開催)

- ・ 講師：あすみん職員 (中村)
- ・ 目次

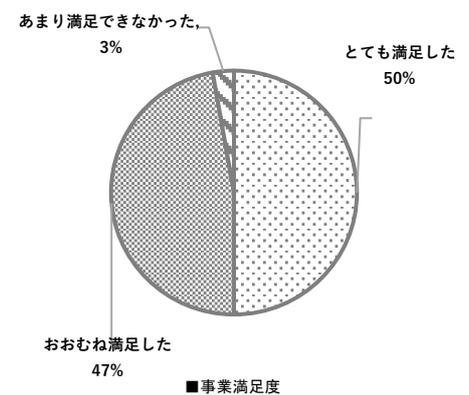
1. あすみんとは
2. NPO について
3. 広義の「NPO」
4. 狭義の「NPO」
5. 最狭義の「NPO」
6. 課題解決に取り組む NPO
7. お知らせ



■NPO 入門講座のようす



■NPO 入門講座のチラシ



〈成果〉

コロナ禍での開催ながら、目標参加数に迫る数字となりました。NPO について深く知りたい方や NPO 法人格取得、団体設立を目指している方など、様々な目的で講座に参加されていました。「NPO」という言葉は知っていても概要や特徴までは知らないという方が多く、活動の目的や法人格の違い、団体活動の事例を紹介することで、理解度の高い結果につながりました。質疑応答などを講座中に行うことで、参加者一人一人が理解しながら講座を進めることができました。参加者からのアンケートでも「分かりやすい」という回答が多く、今後の活動を前向きに進める効果がありました。

C	2-2	ボランティア講座	2:市民公益活動に関する研修及び講座の実施
---	-----	----------	-----------------------

〈目的〉

ボランティア活動に関心をもつ市民や団体を対象に、ボランティアの基礎的な知識はもちろん、ボランティア活動の意義やそのはじめ方、受入れ団体側の心構えなどをつたえる。

〈実施状況〉

●定期講座の内容

- ・対象：ボランティアについて知りたい人、ボランティアの受け入れを考えている団体
- ・定員：20名 ・場所：セミナールーム
- ・参加者数：33名（うちオンライン14名）（目標参加者数：40名） ・アンケート回収：33票
- ・満足度：とても理解できた、概ね理解できた 33票（100%）
- ・実施回数：4回

5/6（木）14時～15時30分（参加者6名）（日本乾溜工業株式会社）（リアル開催）

6/8（火）19時～20時30分（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

8/21（土）14時30分～16時（参加者13名）（オンライン開催）

10/19（火）19時～20時30分（参加者10名）（ハイブリッド開催）

12/18（土）14時30分～16時（参加者4名）（リアル開催）

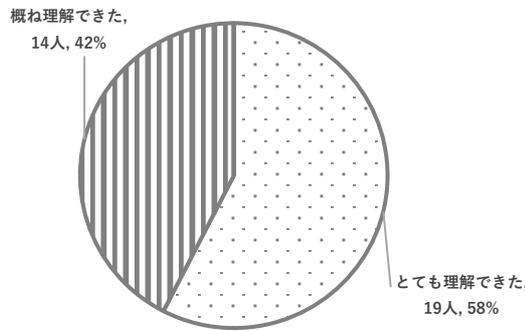
- ・講師：あずみん職員（中村、永尾）

・目次

1. あずみんとは
2. NPO・ボランティアとは？
3. ボランティアを始めるには？
4. ボランティアコーディネーションとは
5. まとめ



■講座の様子(オンライン)



■講座の理解度

〈成果〉

昨年度に引き続き定期開催としたボランティア講座は、新型コロナウイルスの影響を受け目標参加者数を下回ったものの全体として理解度100%の高評価となりました。どの回においても、講座の初めにどんな参加者が多いのか、どんな話をきいてみたいのかを参加者に聞くことで、参加者の満足度が高まるように、講座の中で重点ポイントを変えた内容で講義し、受講後には、ハジメのイッポへの申し込みなど、ボランティア活動への参加にも結び付いています。アンケートには、ポジティブな意見・感想はもちろん「遠方から参加しているため、他の講座もハイブリッド開催にしてほしい」というニーズも把握できました。またオンラインの方にも十分に伝わるスピードで話すこと、理解促進などを考慮すると、次年度の講座開催時間は少し延長することも考慮に入れる必要があります。

C	2-3	NPO 基盤強化講座	2:市民公益活動に関する研修及び講座の実施
---	-----	------------	-----------------------

〈目的〉

組織の運営に悩んでいる団体、新規事業にチャレンジしたい団体などを対象に、組織に必要なマネジメント力の強化を目的とした様々な知識やスキルを提供する。

〈実施状況〉

●講座の概要

- ・対象：組織の運営に悩んでいる団体、新規事業にチャレンジしたい団体
- ・実施回数：8回
- ・定員：各30名（感染症要望の為） ・ハイブリッド開催
- ・参加者数：261名（うちオンライン186名）（目標参加者数：144名）
- ・アンケート回収：165票
- ・理解度：とても理解できた、概ね理解できた 156票（94.5%）



■NPO マネジメント講座のようす

●詳細

【第1回】オリエンテーション

- ・実施日：1/13（木）19時～21時（参加者21名）
- ・講師：NPO法人佐賀県CSO推進機構 秋山 翔太郎 氏

【第2回】労務管理

- ・実施日：1/17（月）19時～21時（参加者32名）
- ・講師：株式会社ミカサ 次長 松崎 裕二氏

【第3回】人財育成

- ・実施日：1/20（木）19時～21時（参加者26名）
- ・講師：富士通株式会社 藤園 賢治 氏

【第4回】危機管理

- ・実施日：1/24（月）19時～21時（参加者35名）
- ・講師：株式会社ミカサ 課長補佐 濱口 宏一郎氏

【第5回】クラウドファンディング

- ・実施日：1/27（木）19時～21時（参加者38名）
- ・講師：READY FOR 株式会社 徳永 健人 氏

【第6回】会計税務

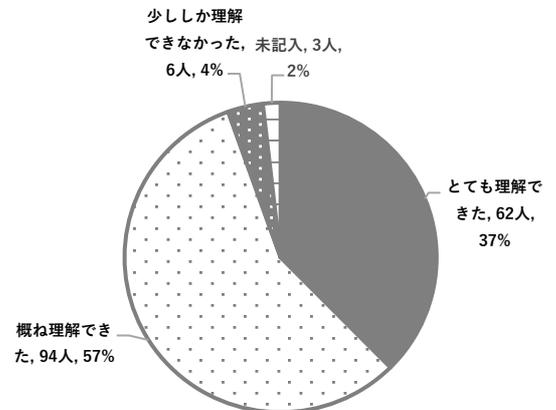
- ・実施日：1/31（月）19時～21時（参加者31名）
- ・講師：NPO会計税務支援福岡 副代表 白石 京子 氏

【第7回】コミュニケーション

- ・実施日：2/3（木）19時～21時（参加者39名）
- ・講師 NPO法人九州コミュニティ研究所 二宮 聡 氏

【第8回】地域コミュニティ

- ・実施日：2/7（月）19時～21時（参加者39名）
- ・講師合同会社 VisionAreal 共同代表 おきな まさひと 氏



■講座チラシ

〈成果〉

この事業から本格的にハイブリッド開催をスタートさせました。このコロナ禍で活動が停滞して、解散などに至った団体も少なくなかったという背景を受け、サステナブルな組織づくりを目的に、これからの時代に求められる知識やスキルを8回の連続講座で構成しました。講師については藤園氏、松崎氏については昨年度に引き続き依頼し、秋山氏、濱口氏、徳永氏、二宮（あすみんスタッフ）、おきな氏に新たな講座を依頼しました。ハイブリッド開催としたことで、東京の講師にも参画してもらうことができ、あすみんの事業の幅が広がりました。オンライン上からも質問が多く出るなど、一方通行ではないやりとりで相互に理解を深めながらの進行ができました。

〈目的〉

NPO・ボランティア団体に向けて「SNSの基礎知識」や「メディア活用の基礎知識」「チラシデザイン」などについてレクチャーし、団体の広報力の向上を図る。

〈実施状況〉

●講座の概要

- ・対象：広報の基礎を学びたいNPO法人・任意団体など
- ・定員：20名 ・場所：あずみんセミナールーム
- ・参加者数：11名（目標参加者数：20名）
- ・アンケート回収：9票
- ・理解度：とてもよくわかった、わかった9票（100%）
- ・実施回数：1回

8/28（土）14時30分～16時（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

12/14（金）19時～21時（参加者11名）

- ・講師：あずみん職員 中村
- ・内容

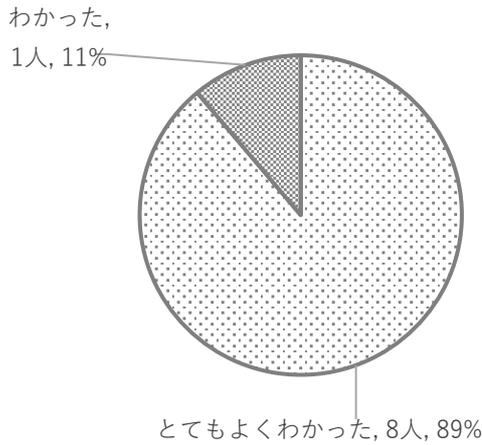
情報伝達の目的から、キャッチコピーのコツやデザインの基礎知識を学び、実際に手書きでチラシを作りました



■講座のようす：広報について



■講座のようす：チラシを作るワーク



■事業理解度

〈月



■NPO 広報講座のチラシ

今回の講座は初級編とし、広報について初めて学ぶ人たちを主な対象に絞りました。チラシの作成のワークショップなど実際に体験する時間をはさみながら、様々なメディアを活用した広報の基本的なポイントや、ちょっとしたコツを伝える内容としました。事例やワークショップを多く取り入れたことで、参加者の理解が深まり、広報力の向上につながる講座となりました。アンケート結果から、高い理解度となっており、満足度が高い講座となりました。

8月にも同一のテーマで講座の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

C	2-5	NPO 法人設立説明会	2:市民公益活動に関する研修及び講座の実施
---	-----	-------------	-----------------------

〈目的〉

NPO 法人の設立を考えている団体や市民を対象に、NPO 法人の役割や法人設立への流れを理解してもらうことを目的とする。※市民局市民公益推進課認証係との共同開催

〈実施状況〉

●講座の概要

- ・対象：NPO 法人設立を考えている団体や市民
- ・定員：20 名 ・場所：セミナールーム C ・ハイブリッド開催
- ・参加者数：33 名（うちオンライン 6 名）（目標参加者数：60 名）
- ・アンケート回収：30 票
- ・理解度：とても理解できた、概ね理解できた 27 票（90.0%）
- ・実施回数：10 回

- 4/13（火）14 時 30 分～16 時（参加者 4 名）
- 5/11（火）14 時 30 分～16 時（参加者 5 名）
- 6/8（火）14 時 30 分～16 時（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
- 7/13（火）14 時 30 分～16 時（参加者 3 名）
- 8/10（火）14 時 30 分～16 時（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
- 9/14（火）14 時 30 分～16 時（参加者 3 名）
- 10/12（火）14 時 30 分～16 時（参加者 4 名）
- 11/9（火）14 時 30 分～16 時（参加者 3 名）
- 12/14（火）14 時 30 分～16 時（参加者 7 名）
- 1/11（火）14 時 30 分～16 時（参加者 1 名）
- 2/8（火）14 時 30 分～16 時（参加者 1 名）
- 3/8（火）14 時 30 分～16 時（参加者 2 名）

・講師：あすみん職員（永尾）

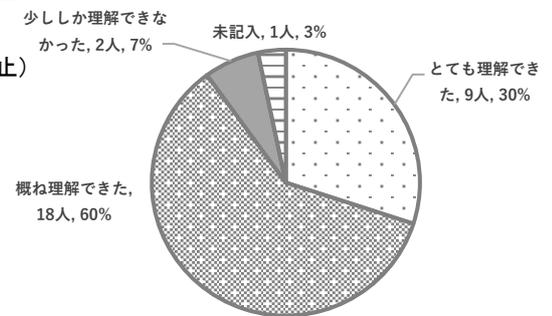
市民局市民公益活動推進課（尾崎氏、船木氏、和田氏、中村氏、喜多氏）

・目次

1. あすみんとは
2. 特定非営利活動法人（NPO 法人）のあらまし
3. NPO 法人格を取得するメリットと義務
4. NPO 法人の特徴
5. NPO 法人の設立までの流れ
6. 具体的な設立手続き
7. まとめ・質疑応答



■NPO 法人設立説明会の様子



■事業理解度

〈成果〉

あすみんスタッフは前半部分の「NPO とは何か」といった NPO に関する基礎的な内容や他の法人格についての解説を担当しました。今年度は、コロナ禍でもできる限り中止せず開催する方針で、ハイブリッド開催をスタートさせました。実際には、来館・オンライン片方だけの参加となり、ハイブリッドで開催を実施した回はありませんでした。オンラインであっても参加者への理解度が下がらないよう、さらなる工夫が必要となります。

〈事業の目的〉

NPO や行政、企業、地域、大学等の多様な主体を対象に、お互いの活動やミッションを知るきっかけとなる交流の場を設け、社会課題の解決に向けて連携・共働する関係づくりの促進を目的とする。

〈事業体系〉

- 3-1. あすみん交流会
- 3-2. 新規登録団体交流会
- 3-3. 市民活動・ボランティアフォーラム
- 3-4. 社会貢献企業の見える化
- 3-5. 市民公益活動に関する取組の開催誘致
- 3-6. 他施設・他組織の連携
- 3-7. 先輩 NPO に聞いてみよう
- 3-8. あすみんステージ
- 3-9. 全国のサポートセンターとの連携
- 3-10. 公益活動団体同士の共働の推進

〈事業総括〉

昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受けた年でしたが、中止という判断をできる限り避けようと、年度の後半から事業の大半をハイブリッド開催に切り替えて対応しました。

リアル会場では引き続き検温や消毒など感染防止対策を徹底し、感染者を出すことなく、無事に事業を終了することができました。

交流連携は、事業ごとに達成すべき成果を設定し、とくに事業の柱として、あすみん交流会とボランティアフォーラムに注力し、その内容の強化をはかりました。ボランティアフォーラムにおいては、特に講演会のテーマやソーシャルショップの展示などが多くの来館者に楽しんでいただけたたり、学びに繋がったようで市民活動のこれからの展開のヒントを来場者と共有することができました。また、今年は福岡の高校生が自主制作した映画の上映会も実施し、多くの若者をあすみに引き込むことができ、若年層との新たなネットワークの創出ができたと感じています。あすみん講演会についても、予めハイブリッド開催としたことで、関東などの遠方や海外からの参加にもつながりました。

また、あすみん交流会では、NPO をはじめ企業、行政など、それぞれのセクターからの参加者があり、多様な主体との意見交換をすすめることができました。「先輩 NPO に聞いてみよう」についても、これまで同様に高い満足度を維持し、参加者と先輩 NPO との交流につながっています。

C	3-1 あすみん交流会	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-------------	-------------------

〈目的〉

市民公益活動を行なう団体・個人や行政、企業などを対象に、ネットワークづくりや「あすみん」との関係構築を目的とする。

〈実施状況〉

●交流会の内容

- ・対象：NPO・ボランティア活動に関心のある方
- ・実施回数：2回
- ・参加者数：27名 ・アンケート回収：22票
- ・満足度：とても満足した、概ね満足した 20票（91%）

【第1回】

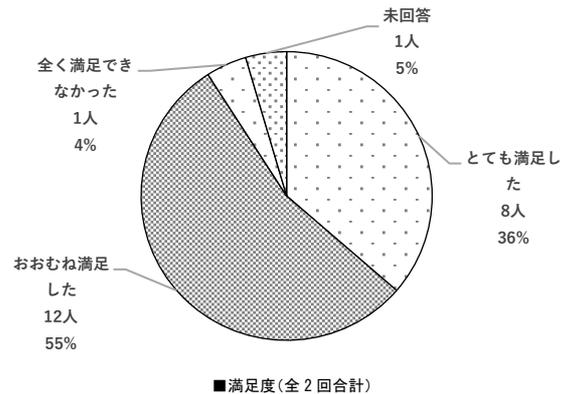
- ・実施日：2021年7月17日（土）14時30分～16時30分
- ・定員：30名
- ・参加者数：19名
- ・アンケート回収：15票
- ・満足度：とても満足した、概ね満足した 14票（93%）
- ・プログラム
 1. 「あすみん」について（施設紹介）
 2. グループで自己紹介
 3. フリー交流タイム
 4. 動画撮影

【第2回】

- ・実施日：2022年3月6日（日）11時00分～12時30分
- ・定員：30名
- ・参加者数：8名
- ・アンケート回収：7票
- ・満足度：とても満足した、概ね満足した 6票（86%）
- ・プログラム
 1. 「あすみん」について（施設紹介）
 2. グループで自己紹介
 3. フリー交流タイム
 3. 動画撮影



■交流会の様子



〈成果〉

3月に行われた交流会では、「ウェルビーイング」をテーマに参加者同士の交流をはかりました。1つのテーマをおくことで参加者同士がコミュニケーションしやすくなり、より活発な交流の場をつくることができました。

また、昨年度からはじめた団体紹介の動画撮影を今年度もおこないました。自らチラシやパネルを準備されるなど、動画撮影を目的として参加されている団体も見られました。

全体のアンケートの結果、参加者の96%から、「とても満足した、概ね満足した」との回答をいただきました。

C	3-2 新規登録団体交流会	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	---------------	-------------------

〈目的〉

新規登録団体を対象に、団体の不安を解消し、スタートアップを支援する。「あすみん」の利用や事業紹介などの情報提供、参加団体相互の情報交換を行い、ネットワークづくりを目的とする。

〈実施状況〉

●交流会の内容

- ・対象：あすみんへ新規に団体登録を行った団体
- ・実施回数：1回（第1回は中止）
- ・参加者数：9名（5団体） ・アンケート回収：7票
- ・満足度：とても満足した、概ね満足した 7票（100%）

【第1回】（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

- ・実施予定日：6/10（木）19時～20時半
- ・対象団体数：29団体（登録No. 733～762）



■交流会の様子

【第2回】

- ・実施日：2021年11月11日（木）19時00分～20時30分
- ・対象団体数：64団体（登録No. 733～797）
- ・参加者数：9名（5団体）
- ・アンケート回収：7票

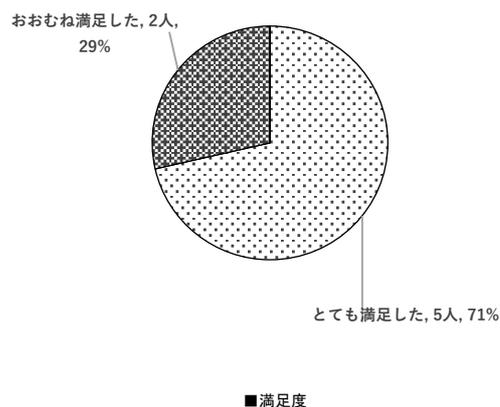
満足度：とても理解できた・概ね理解できた 7票（100%）

・プログラム

1. あすみんの紹介・活用術について
2. 団体活動紹介（団体についてのPRタイム）
3. フリータイム



■交流会の様子



〈成果〉

第1回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施することができませんでしたが、11月に開催した第2回では、新しく登録した団体さんを対象にあすみんの施設紹介やワーキングコーナーの使い方など、施設利用のポイントについて説明しました。また、フリータイムでは各団体がそれぞれ交流され、団体の情報交換などをしていました。参加者の中には、あすみに登録はしたものの臨時閉館などで利用できない期間も長く、ワーキングコーナーの活用法や、部屋の予約方法をご存知ではない方も多かったです。閉会后にセミナーの予約をして帰られる団体さんもあり、交流会を通してあすみんについて理解を深めていただき、施設利用の促進にも繋げる事ができました。

C	3-3	市民活動・ボランティアフォーラム	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-----	------------------	-------------------

〈目的〉

NPO・ボランティア、学生等の市民公益活動、企業の社会貢献活動の取り組みなどをより多くの市民に知ってもらい、社会課題への解決へ向けた関係づくりをすすめることを目的とする。

〈実施状況〉

●フォーラムの概要

- ・対象：NPO・ボランティア団体はじめ、行政や企業、大学生等
- ・実施回数：1回（2日間）
- ・参加者数：852名（目標参加者数：1000名）
- ・アンケート回収50票
- ・満足度：「とてもよかった」、「よかった」有効回答21（100%）

昨年度からアンケートの様式を変え、各コンテンツでのアンケートに重複はまとめ、来館者がアンケートを2~3枚書くといった負担を減らした。結果として全体アンケートの回収率は下がった。GAF全てのコンテンツのアンケート回収総計は207票であった。

●3月5日（土）

○10：30-13：00 あすみんステージ（1日目）

（参加者数157名〔内訳：出演者数：19名、来場観覧者数：119名、Facebook動画配信視聴者19名〕）

○13：00-15：00 映画上映会（参加者数72名〔内オンライン9名〕）

○15：30-17：30 学生ボランティアミーティング（参加者数10名）

○18：30-20：30 先輩NPOに聞いてみよう（参加者数7名〔内Facebook動画配信視聴者5名〕）

●3月6日（日）

○11：00-12：30 あすみん交流会（参加者数8名）

○11：30-14：30 あすみんステージ（2日目）

（参加者数187名〔内訳：出演者数：24名、来場観覧者数：118名、Facebook動画配信視聴者45名〕）

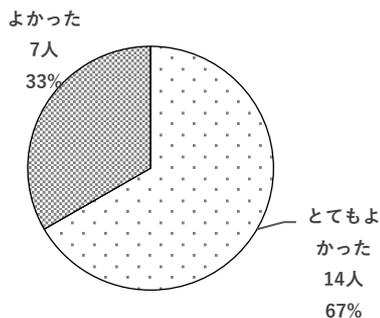
○15：00-17：00 あすみん講演会「ウェルビーイングからはじめる市民活動」

（参加者数92名〔内オンライン46名〕）

（両日）

【館内展示】

- ・見学者数275名
- ・ハローソーシャル（NPO版ハローワークとして、NPOの「求人票」と、個人の「志人票」を掲載）
- ・あなたの生きがいやりがい教えてください（参加者のウェルビーイングを見える化するコーナー）
- ・ソーシャルグッドミュージアム（社会にいいプロダクト・プロジェクトを紹介するコーナー）
- ・オンラインツール体験（Zoomを使ったビデオ通話・Web会議を体験するコーナー）



■事業満足度

〈成果〉

今年度は、「ウェルビーイング」をテーマに、2日間のイベントを開催しました。昨年と同様に、「あすみんな交流会」や「学生ボランティアミーティング」「あすみんなステージ」などの交流連携事業も同日開催し、複合的なイベントとして構成しました。

基調講演では、東京都市大学から坂倉杏介氏を講師に迎え、「ウェルビーイングからはじめる市民活動」と題してお話いただきました。アンケートには「市民活動や地域活動は課題解決や義務感が先行しがちですが、“自分のやりたいこと”からまちづくりにつなげたい」「幸せのシェアという考え方を家庭や職場から取り組みたい」等の感想があり、自分のやりがいや生きがいが市民活動につながっていくことに気づく機会となりました。講演内容はオンライン配信し、全国から参加できるハイブリッド開催とし、総数の50%となる46名の参加がありました。

映画上映会では、幅広い年代から参加を募ることができ、起立性調節障がいについてや、福岡の学生の市民活動の取り組みについて知ってもらう機会づくりができました。あすみんなへ初めて来館した方も多く、施設のPRにもつながりました。

展示ではハローワークを模した「ハローソーシャル」、参加者のみなさんのウェルビーイングを見える化する「あなたの生きがいやりがい教えてください」、社会にいい商品を集めた「ソーシャルグッドミュージアム」、会場内のPCで実際にZOOMを使ってみる「オンラインツール体験」などのコーナーを設けました。

「ハローソーシャル」は、常設に加え今回のイベントに合わせお声掛けをして、新規に5件の募集情報を受け付けました。「あなたの生きがいやりがい教えてください」は、150名のウェルビーイングが集まり、多様な人の幸せの価値観を知るきっかけとなりました。「ソーシャルグッドミュージアム」には、8つのプロダクトと17のプロジェクトが並び、見応えのある展示となりました。来館者の方もはじめて目にするものが多く、購入に対する問い合わせを多く受け、社会貢献の新たな入り口を示すことができました。

「あすみんなステージ」では、11団体に日頃の活動紹介やワークショップを開催していただきました。今年度もチラシを作らずWEB広報での集客を行いました。新型コロナウイルス感染症の感染率が高まった時期ではありましたが、コロナ禍でもできるイベント開催を意識しほとんどのプログラムをハイブリッド開催としました。結果、新型コロナウイルス感染症へ不安を抱える方、全国からも参加ができるイベントとなり、交流の機会創出につながりました。



■あすみんな講演会



■あなたの生きがいやりがい教えてください展示



■ソーシャルショップの用紙



■あすみんなステージWSの様子



■映画上映会集合写真



■あすみんなステージの様子



■GAF 広報バナー



■あすみんな講演会広報バナー



■あすみんなステージの様子

C	3-4	社会貢献企業の見える化	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-----	-------------	-------------------

<目的>

企業が求めている社会貢献に向けたニーズや課題を把握し、CSR・CSV、SDGsなどの事例を館内掲示やウェブなどで紹介し、市民公益活動の重要な取り組みとして周知を図る。

<実施状況>

●カレンダー・家計簿等の寄贈（6社、8件）

【富士機材株式会社】カレンダー

・実施日：11/26（金）～ 2/28（月）

【株式会社大塚商会（社長室環境・社会貢献課）】家計簿付き冊子

・実施日：12/15（水）

【東京海上日動火災保険株式会社】カレンダー

・実施日：1/4（火）～ 2/28（月）

【株式会社イー・ワイ・エス】カレンダー

・実施日：1/4（火）～ 2/28（月）

【株式会社大塚商会（社長室環境・社会貢献課）】カレンダー

・実施日：1/6（木）～ 2/28（月）

【株式会社ナスアグリサービス】カレンダー

・実施日：1/7（金）～ 2/28（月）

【株式会社大塚商会（社長室環境・社会貢献課）】カレンダー

・実施日：1/11（火）～ 2/28（月）

【東京海上日動火災保険株式会社】カレンダー

・実施日：1/13（土）～ 2/28（月）

【株式会社NIPPON】童話集

・実施日：3/5（土）～ 3/31（木）

●ボランティア講座の開催（1社、1回、計6名）

（G2-2 ボランティア講座へ計上、再掲）

【日本乾溜工業株式会社】6名

・実施日：5/6（木）

●ボランティア活動の参加（3社、5回、計95名）

（※C5-2 ボランティア体験コーディネートへ計上、再掲）

【ジブラルタ生命保険株式会社】27名

・実施日：10/23（土）

【株式会社ノーリツ】9名

・実施日：11/20（土）、27（土）

【明治安田生命保険相互会社】59名

・実施日：11/27（土）、12/12（日）、1/9（日）



■カレンダー



■家計簿付き冊子



■童話集

<成果>

6つの企業からカレンダー・手帳・家計簿付き冊子等の寄付希望があり、あすみんで展示・配布を行いました。また、1つの企業からは、社員向けのボランティア講座の依頼があり、あすみんで開催しました。年度の後半には、3つの企業からCSR活動の一環として社員でボランティア活動に参加したいという申し出があり、参加手配を行いました。CSR・CSV活動に対して、いろいろな形で、その企業のできることから取り組んでいることが分かりました。企業とNPO・ボランティア団体の相互に価値のあるCSR・CSVを支援することができました。

C	3-5	市民公益活動に関する取組の開催誘致	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-----	-------------------	-------------------

〈目的〉

市民公益活動の促進や支援に関するイベントや会合を誘致し、広域的な利用促進とセンターの周知を図る。

〈実施状況〉

●イベント開催誘致の主な実施内容

- ・対象：登録団体及び公益活動をおこなう団体
- ・実施回数：0回（目標回数：3回）

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催中止

- ・団体数：0団体
- ・参加者数：0名

【令和4年度『子どもゆめ基金』募集にかかる説明会】

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催中止

- ・実施日：9/5（日）
- ・内容：説明会会場として
- ・連携先：独立行政法人 国立青少年教育振興機構

〈成果〉

セミナールーム全室を利用し、独立行政法人国立青少年教育振興機構主催による「令和4年度『子どもゆめ基金』募集にかかる説明会」を開催する予定でしたが、コロナ禍により開催中止となりました。今年度の開催は出来ませんでした。日程を調整し来年度に開催することになりました。

C	3-6	他施設・他組織との連携	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-----	-------------	-------------------

〈目的〉

社会課題の解決や市民公益活動の推進に取り組んでいる他施設・他組織と連携し、市民公益活動の推進へと繋げる。

〈実施状況〉

- ・対象：市民公益活動を支援する施設・組織
- ・実施回数：12回

●特定非営利活動法人緑のキャラバン隊との連携

- ・実施日：4/5(月)～7(水)
- ・場所：あすみん
- ・内容：市のイベントで活動発表に使用した後の花苗展示・配布

●しごと・ボランティア合同説明会

- ・実施日：7/19(木)、2/24(木)
- ・場所：天神ビル11階、福岡国際会議場 2階 多目的ホール201・202
- ・連携先：福岡県70歳現役応援センター

●コレクティブふくおか+

- ・実施日：8/5(木)、9/26(日)、1/29(土)
- ・場所：オンライン開催
- ・内容：地域や暮らしや仕事について考える参加者の支援
- ・連携先：福岡市市民局、株式会社YOUI

●福岡県公設センター連絡会

- ・実施日：9/29(水)、1/19(水)、3/17(木)
- ・場所：オンライン開催、福岡県NPO・ボランティアセンター
- ・内容：「NPOと市民活動の基礎講座」
「協働のため、行政とNPOの違いを知る」
「協働のため、センターができること/できないこと」
- ・連携先：福岡県NPO・ボランティアセンター

●NPO法人設立認証交付式

- ・実施日：2/14(月)、3/1(火)
- ・場所：オンライン開催
- ・内容：新しくNPO法人を設立した方へのあすみんの施設紹介
- ・連携先：福岡市市民局

●アラカンフェスタ

- ・実施日：3/11(金)
- ・場所：JR九州ホール9・10階 会議室
- ・内容：あすみんの施設やボランティアプログラムの紹介
- ・連携先：アラカンフェスタ実行委員会(福岡市)

〈成果〉

今年度も多くの連携事業を行いました。特に特徴的だったのは、コレクティブふくおか+との連携です。プログラム参加者にあすみんの施設を利用していただけよう利用者カードの作成と、Zoomを通じた施設の案内を行いました。参加者の考えるプロジェクトにマッチするNPO法人を紹介したり、プログラム参加者があすみんを利用したり、新たな市民公益活動の担い手とのつながりができました。

C	3-7	先輩 NPO に聞いてみよう	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-----	----------------	-------------------

〈目的〉

登録団体や行政、企業などを対象に、団体間のネットワークづくりや「あすみん」の利用促進やさらなる関係構築を図る。

〈実施状況〉

●内容

- ・実施回数：3回 ・定員：各20名 ・場所：ミーティングコーナー
- ・参加者数：57名（目標参加者数：各回12名）
- ・アンケート回収：32票
- ・満足度：とても理解できた、概ね理解できた 31票（97%）

【第1回】

- ・実施日：6/30（金）19時～21時（参加者9名）
- ・ゲスト：大庭欣二氏（福岡福祉向上委員会 代表）

【第2回】

- ・実施日：11/12（金）19時～21時（リアル16名、オンライン10名）
- ・ゲスト：立花祐平氏（認定NPO法人改革プロジェクト 代表理事）

【第3回】

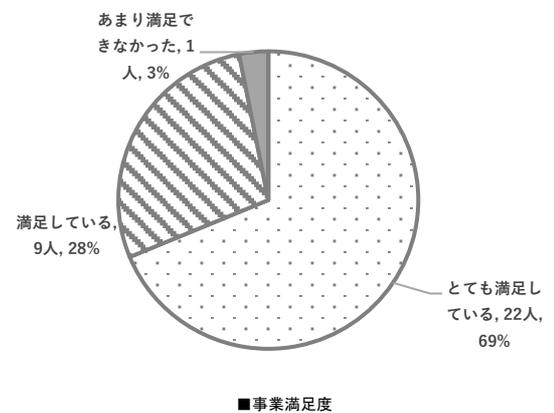
- ・実施日：2/10（木）19時～21時（リアル12名、オンライン10名）
- ・ゲスト：江崎太郎氏（特定非営利活動法人 YNF 代表理事）

【第4回】（ゲストの都合により開催中止）

- ・実施日：3/5（土）18時半～20時半
- ・ゲスト：筑前りょう太氏（NPO法人九州プロレス 代表）



■イベントの様子



〈成果〉

新型コロナウイルス感染拡大防止のための延期を繰り返していましたが、2年ぶりに開催することができました。初回はまん延防止等重点措置発令中の中での開催ではありましたが、定員の半数の方々の参加があり、満足度は100%を得ることができました。また、facebookを活用してオンラインライブ配信も行い、会場に来ることが難しい方にも楽しんでいただけるように工夫しました。参加者からは、「素晴らしいイベントに誘ってくれてありがとう」とのお礼や、「先輩NPOが話していたセミナーに参加したいがどうすればいいか」「楽しく、おもしろく、社会貢献しながら活動されている事を聞き、とても素晴らしいなと思いました。」「NPOやボランティア参加のハードルが下がり、やってみたい気になりました。」など感想やお問い合わせをいただき、参加者へNPO活動に新しい1歩を踏み出す機会を提供することができました。また第3回では、参加者から「NPOのやりがって何?」「NPOって就職できるの?」など、率直な質問が投げかけられ、ゲストのプライベートまで踏み込む質問も出て、NPO立ち上げの背景や思い入れなどよく分かる交流の時間となりました。今後は、同事業のリピーター獲得も念頭に定期的な開催を進めていきます。3月の開催は講師の新型コロナウイルス感染を受け、中止となりました。

C	3-8	あすみんステージ	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-----	----------	-------------------

〈目的〉

日ごろの活動や力を入れている取り組み（ワークショップや工作を含む）などをPR・発表する場を設け、互いの活動や思いを知るきっかけとし、団体活動の推進につなげる。

〈実施状況〉

●概要

2021年6月22日（火）14時00分～14時40分 参加者数：3名（参加団体：1団体）

2021年9月11日（土）※臨時閉館のため開催中止（参加申込団体：4団体）

2021年12月11日（土）13時00分～17時00分 参加者数：64名（参加団体：4団体）

2022年3月5日（土）10時30分～13時00分 **参加者数：138名（内Facebook中継視聴19名）**
（参加団体：5団体）

2022年3月6日（日）11時30分～14時30分 **参加者数：163名（内Facebook中継視聴45名）**
（参加団体：6団体）

●あすみんステージ参加団体

実施月日	実施団体名
6月22日	アストル・ピアソラ生誕100周年記念事業実行委員会
12月11日	福岡みすゞ会
12月11日	絵本コンシェルジュクローバー
12月11日	ママの働き方応援隊 福岡中央校
12月11日	CGMボランティア福岡
3月5日	緑のコーディネーター
3月5日	NPO 法人アイス
3月5日	心理学実践教室ここから
3月5日	株式会社ミカサ（CSR 報告）
3月5日	特定非営利活動法人緑のキャラバン隊
3月6日	絵本コンシェルジュクローバー
3月6日	ファミリアアカデミー
3月6日	福岡能楽大連吟実行委員会
3月6日	認定NPO法人日本セラピューティック・ケア協会
3月6日	特定非営利活動法人福岡終活・相続支援センター みらいあん
3月6日	ふくおかやさしい日本語でつなぐ会



■アストル・ピアソラ生誕100周年記念事業実行委員会



■ママの働き方応援隊 福岡中央校



■あすみんステージの様子

〈成果〉

コロナ禍でNPO団体においても未だ活動自粛やイベントの中止が多い一年となったため、発表の場が提供できたことに多くの歓迎の言葉をいただきました。団体と観客が一緒になって参加するものが多く、会場は大変盛り上がりました。感染拡大の対策をしながらでも発表の機会を持てたことが、今後の団体活動へのやる気にも繋がったようです。また、Facebookライブでの配信を通して、会場に来られない方にもステージの様子を見ていただくことができました。これは団体からも好評で、継続の要望をいただいています。また、今年度は登録団体以外から4団体も参加いただき、あすみんの周知が少しずつ広がっているようです。

C	3-9	全国のサポートセンターとの連携	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-----	-----------------	-------------------

〈目的〉

市民活動の支援に取り組む全国のサポートセンターと連絡を取り合い、事業やノウハウの相互交換など、同じ使命感を持つ施設同士の連携を高める。

〈実施状況〉

●佐賀市市民活動プラザ

【NPO基盤強化講座】

- ・実施日：2022年1月13日（水）
- ・実施内容：NPO基盤強化講座第一回「オリエンテーション」の講師にお招きし、佐賀市市民活動プラザの概要と取り組みを紹介していただいた。

【Being あすみん】

- ・実施日：2022年2月23日（水）
- ・実施内容：Being あすみんにて、佐賀市市民活動プラザの概要と取り組みを紹介いただいた。



■佐賀市市民活動プラザとの連携(Being あすみん)

●北九州市市民活動サポートセンター

- ・実施日：2022年1月27日（木）
- ・実施内容：4月からセンターで新しく取り組む事業を企画するにあたり、あすみんの事業を参考にしたいと相談。

〈成果〉

コロナ禍でしたが、オンラインも交えるなど、感染対策に取り組みながら連携を進めることができました。佐賀市市民活動プラザからは、時代に合わせたオンライン会議支援等の取り組みや、顧客のニーズに応える事業実施、スタッフのチームビルディングなどについて、大変参考になるお話をさせていただきました。利用率の向上や印刷の売上増に向けた取り組みを伺い、あすみんの利用率向上にも可能性を感じることができました。また、北九州市市民活動サポートセンターからは、あすみんの事業を参考にしたいと相談があり、日頃の事業の取り組みが近隣のセンターに伝わっていることがわかりました。今後もオンラインを有効活用し、他センターと高め合っていけるよう努めます。

C	3-10	公益活動団体同士の共働の推進	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	------	----------------	-------------------

〈目的〉

団体同士の想いや事情を出し合い、共働へとつなげる。

〈実施状況〉

●相談件数：28件

内訳

- ・特定非営利活動法人（NPO 法人）：10件
- ・任意の NPO・ボランティア団体：10件
- ・学校：1件
- ・企業・その他：7件

●紹介：19件

●実施：3件



〈成果〉

社員を「ボランティアに参加させたい」など、あすみに相談に来られた団体に、あすみの登録団体や、事業などでつながりのある団体を紹介し、マッチングをはかりました。紹介した団体の中には、実際にあすみんで話し合いの場を設けた団体や、紹介した団体のボランティアプログラムに参加された事例も見られました。全ての相談が実際にボランティアなどの活動の実施までにはいたりませんでした。団体同士で話し合うことも多く、NPO やボランティア団体とのつながりを求めている方が多いことが分かりました。

〈事業の目的〉

この事業は、被災地支援に関心のある市民やNPO・ボランティアを対象に、災害発生時に円滑に災害ボランティア活動が行えるよう、被災地の状況やボランティア募集の情報を発信することと、災害ボランティアの基礎的な知識を学べる場を提供し、災害時におけるボランティア活動を支援することを目的とする。実施に当たっては、災害発生時の協力体制の構築も視野に入れて、他施設や大学等と連携して実施する。

〈事業体系〉

- 4-1. 災害ボランティア・防災情報の提供
- 4-2. 災害ボランティアワークショップ

〈事業総括〉

今年度は、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が繰り返し発動する中で、生活において制限の多い年となりました。あすみんでも休館や開館時間の制限がかかることがありました。また、今年度も地震や大雨など災害の多い1年となり、特に8月11日以降から連日降り続いた大雨は、北部九州をはじめ西日本から東日本の広い範囲で大きな被害をもたらしました。現地への被災地支援もコロナ禍において受入れ方は地域によって異なり、正確な情報を収集する必要があると考えました。また、様々な形で福岡市からも協力・支援ができる方法を集めて、HPに令和3年8月11日豪雨の特設ページを開設し、SNSやHPなどのオンラインを活用して、情報を発信しました。

災害ボランティアワークショップでは、感染症対策として定員を例年の50人から30人に減らしての開催としました。今回は災害時に発生するあらゆる「もしも」について考え、平常時から繋がれる関係づくりを目的に行いました。緊急事態宣言後のイベントでしたが予想を上回る参加者数で、災害・防災に関わる団体をはじめ、大学生や高齢者、福岡市周辺の地域の人など、異なる立場、経験の差の垣根を越えた交流が生まれました。特に異なる世代、異なる分野の人たちとの交流は、新しい発見や気づきにつながり、コロナ禍においてコミュニケーションや団体連携の減少を改善するきっかけとなり、参加者のニーズに応えることができました。あすみんとの連携においても、他事業での協力や情報共有を行うなど、新しい繋がりを構築することができました。

C	4-1	災害ボランティア・防災情報の提供	4:災害時のボランティア等への活動支援
---	-----	------------------	---------------------

〈目的〉

市民の被災地支援活動を支援し、災害時の対応や防災に関する情報の周知を図るために、ボランティアに関する情報の提供や防災情報の掲示を行う。

〈実施状況〉

●概要（FBにおける情報の提供件数：31件）

- ・避難勧告が廃止され、避難指示に一本化されます ・福岡のソーシャルグッドアクションを紹介します★8 vol13
- ・遊びだけじゃない！防災ツールとしてのキャンピングカー」 ・全国の社会にいい活動を紹介し★8 vol127
- ・熱中症にご注意ください！あすみん登録団体紹介★8 vol126 ・熱海・伊豆山の土石流災害について
- ・早めの避難行動を ・令和3年7月からの豪雨について ・熱中症警戒アラートが発表されました！
- ・大雨に十分注意しましょう ・武雄市で警戒レベル5が発令されています！
- ・令和3年8月11日からの大雨に関する情報について ・災害対応に使用できる資機材を教えてください
- ・衣類・家具の無料提供 ・今日は何の日?? ・8/30-9/5は防災週間！防災のお役立ち情報をお届けします！
- ・災害支援情報随時追加しています！ ・good do for social vol.18 ・登録団体イベント・ボランティア情報
- ・11月5日は「津波防災の日」「世界津波の日」 ・災害ボランティアワークショップ2021を開催しました
- ・登録団体イベント・ボランティア情報 ・豪雨被災地にサンタを！福岡のボランティア活躍しています
- ・1月17日は”防災とボランティアの日” ・福岡市からのお知らせ ・今日は3.11

【HPに特設ページ開設】

- ・ 令和3年8月11日からの大雨について
（災害情報を知る、ボランティアについて、寄附する、物資などを支援する）

【展示】

- ・ 防災食をはじめとするグッズや資料の紹介
（協力企業：日本乾溜工業株式会社、アルファード株式会社、尾西食品株式会社）

【掲示】

- ・ 静岡県熱海市の伊豆山土砂災害に関する情報や災害ボランティアセンター設置等の情報
- ・ 福岡市の「防災レシピコンテスト2021」より抜粋したレシピ
- ・ 東日本大震災・福岡県西方沖地震の情報（災害概要、ボランティア活動、参加・支援情報）



■令和3年8月11日豪雨特設サイト



■防災食・グッズの展示

〈成果〉

8月11日から21日頃にかけて西日本から東日本の広い範囲で大雨となりました。特に北部九州や中国地方では土砂災害による人的被害や、河川氾濫に伴う家屋等の浸水など多数の被害が発生し、あすみんでは被災地に対する支援情報として、HPに令和3年8月11日豪雨の特設ページを開設しました。全国の被災地に設置された災害ボランティアセンターからの情報を中心に最新情報を収集、発信しました。また緊急事態宣言・まん延防止等重点措置期間中であつたため、被災地での受け入れ状況など地域ごとに対応が異なりましたので、正確な情報を精査しながら協力できる情報を伝えました。その他、館内では防災食・グッズの展示や防災週間などの時期に合わせた関連情報の掲示など、災害・防災を身近に感じて平常時でも意識できるきっかけにつなげました。

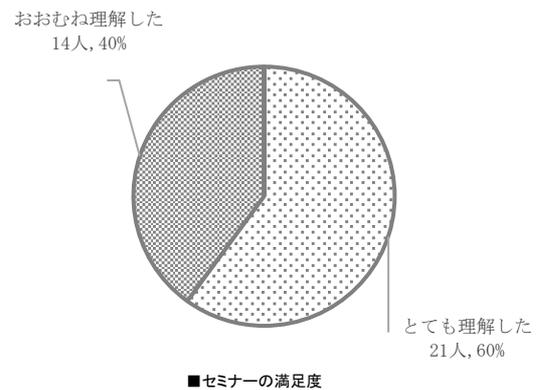
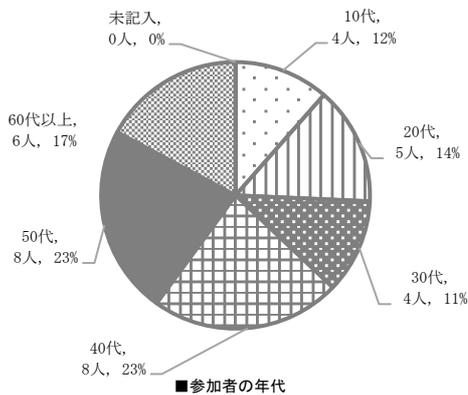
〈目的〉

災害ボランティアネットワークを構築し、災害ボランティア活動を担える人材を育てる。

〈実施状況〉

●講座の概要

- ・ 定員：30名
- ・ 場所：セミナールーム全室
- ・ 実施回数：1回
- ・ 参加者数：36名（目標参加者数：24名）
- ・ アンケート回収：35票
- ・ 理解度：とても満足した、おおむね満足した 35票（100%）
- ・ 実施日：12/4（土）14時～16時
- ・ プログラム
 1. 「何問正解できる？専門家・プロにも難題の「☹️クイズ」
 2. 「災害現場で〇〇な問題発生。あなたはどうする？」
 3. フリー交流タイム（福岡県の防災・災害ボランティア団体が集結！）



〈成果〉

緊急事態宣言解除後の開催となりました。今回は災害時に発生するあらゆる「もしも」について考え、平常時から繋がれる関係づくりをすすめることを目指した開催としました。長年活動されている専門性の高いNPOをはじめ、大学のボランティア団体など、世代や経験・知識の差など関係なく、災害に興味関心のある人たちが集結し垣根を越えた交流になりました。コロナ禍による他団体との連携・構築がより難しくなる中で、活動分野も様々で、福岡市周辺地域からの参加もあり、多様な主体の交流が深まりました。クイズやグループワークを通じて、世代による考え方の特徴、それぞれの市民活動からの異なる視点を知ることができ、参加者からは「知らないことが多くて勉強になった」「楽しく知識が身についた」「世代を超えて語り合える場は貴重」などの感想をいただきました。災害に関わる団体とあすみんとの連携においても、他事業での協力や情報共有へのきっかけとなるなど、新しい繋がりを構築することができました。

〈事業の目的〉

市民を対象に、気軽にボランティア体験を始められる機会を提供し、市民一人ひとりが、市民公益活動の担い手として、自発的かつ主体的に活動に参加していく社会に向けて市民の公益力の育成を目的とする。

〈事業体系〉

■5-1. NPO・ボランティア体験プログラム

■5-2. ボランティア体験コーディネート

〈事業総括〉

今年度は、ボランティアプログラムが37から45に増加しました。コロナ禍でほとんどのプログラムが休止となり、案内も自粛しましたが、緊急事態宣言解除後は徐々に野外でのプログラムが活動を再開しました。しかし、コロナ禍の影響は大きく、他者との物理的な距離をとることが求められ、スポーツイベントや介護施設に訪問するボランティア活動の受け入れなどは、いまだに休止中です。活動は再開できたものの受け入れ団体が利用している施設などからの要望で、新しいボランティアの受け入れができないプログラムも多いようです。長引くこの厳しい状況であるからこそ、困っている方の力になりたいと思う人も増えています。今後は感染拡大を防止しつつ、社会の課題と向き合い、その解決につながる新しいボランティアの形が必要となります。

C	5-1	NPO・ボランティア体験プログラム	5:NPO・ボランティア体験事業
---	-----	-------------------	------------------

〈目的〉

参加者のニーズや希望に対応したボランティア体験プログラムのメニューを提供するとともに、受入団体が新しい支援者やメンバーを獲得する機会を創出する。

〈実施状況〉

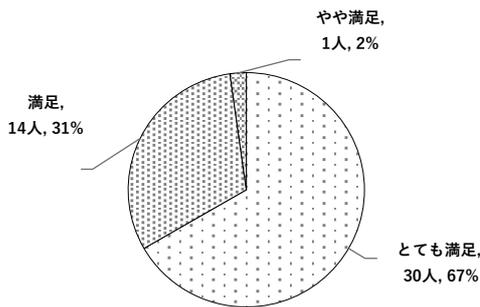
● ボランティア体験事業の内容

- ・対象：ボランティア活動に関心がある市民、活動を始めたい市民
- ・実施日：2021年4月1日（木）～2022年3月31日（木）
- ・プログラム数：45プログラム
- ・体験者数：96名（目標参加者数：100名）
- ・月別体験者数

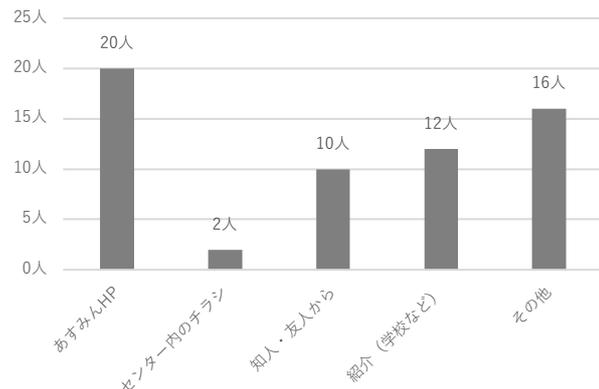


■ハジメのイッポ紹介コーナー

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加者数	2名	0名	1名	20名	6名	3名	17名	15名	8名	7名	9名	8名
受入団体数	2	0	1	5	4	2	10	8	6	3	5	7



■ハジメのイッポの満足度



■ハジメのイッポを知った経緯

〈成果〉

目標数 100 名に対して参加者数 96 名（達成率 96%）となりました。

新規登録団体交流会などでハジメのイッポのプログラムの周知や、更新書類とともに団体へ募集チラシを送付するなどし、コロナ禍ではありますが、プログラム数を 4 月時点の 37 プログラムから 45 プログラムに増加させることができました。

昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、ボランティアの受付を休止する団体がありましたが、清掃活動や花植えの活動など野外での活動は徐々に再開しています。また、日本語ボランティアなどではオンラインでボランティアを行うなど時代に合わせ工夫して活動を再開しました。しかし、ハンドマッサージや子ども食堂のような人と人が接触する活動については、再開しても新しいボランティアの受入れはまだ見送っています。

緊急事態宣言解除後は、「何か活動をしたい」という相談が増え、ハジメのイッポのお申込みも増えてきました。参加者のアンケート結果から、「在宅ワークが続いたため、外に出て交流の機会を持ちたかった。」「コロナ禍でボランティア活動を中止している中、やっと見つけて参加でき、皆さんもいい人で良かった。」「今も継続的に参加している。」という記述も見られ、このコロナ禍でも、感染症の拡大を防止しながら、ハジメのイッポを通して、多様な社会貢献活動への入り口としてボランティア活動に触れる機会を提供できました。

C	5-2	ボランティア体験コーディネート	5:NPO・ボランティア体験事業
---	-----	-----------------	------------------

〈目的〉

企業人がボランティア学習や体験を通して、企業としての社会貢献の意義（CSR）を理解し、社会（地域）との関わりを考えるきっかけを創出することを目的とする。

〈実施状況〉

● ボランティア体験事業の内容

- ・対象：ボランティア活動に関心がある企業の社員
- ・プログラム数：45 プログラム
- ・参加者数：95 名（目標参加者数：71 名）

【ジブラルタ生命保険株式会社】

- ・実施日：9/15（水）～9/30（木）、10/23（土）
- ・受入団体：2 団体（和白干潟のクリーン作戦と自然観察／天神中央公園花のボランティア）
- ・体験者数：27 名
- ・活動内容：ボランティアデーに合わせて9～11 月にかけて計60 名が参加できるボランティアを探しているという相談があり、紹介したプログラムの中から、「和白干潟のクリーン作戦と自然観察」（10 名参加）と「天神中央公園花のボランティア」（17 名参加）に申込みいただきました。

【株式会社ノーリツ】

- ・実施日：11/20（土）、11/27（土）
- ・受入団体：2 団体（いつもと違った汗を掻いてみよう曲淵ダム／和白干潟のクリーン作戦と自然観察）
- ・体験者数：9 名「いつもと違った汗を掻いてみよう」
- ・活動内容：企業の CSR の一環で、ボランティア活動を実施。

【明治安田生命保険相互会社】

- ・実施日：11/27（土）
- ・受入団体：1 団体（天神中央公園花のボランティア）
- ・体験者数：18 名
- ・活動内容：企業の CSR の一環で、ボランティア活動を実施

【明治安田生命保険相互会社】

- ・実施日：12/12（日）
- ・受入団体：1 団体（大博通り ECO クリーンアップ大作戦）
- ・体験者数：20 名
- ・活動内容：企業の CSR の一環で、ボランティア活動を実施。

【明治安田生命保険相互会社】

- ・実施日：1/9（日）
- ・受入団体：1 団体（大博通り ECO クリーンアップ大作戦）
- ・体験者数：21 名
- ・活動内容：企業の CSR の一環で、ボランティア活動を実施。

〈成果〉

今年度もまとまった人数でボランティアに参加する際の窓口として、相談を受け付けました。コロナ禍でも、学校や企業からの問い合わせが多数あり、相談者のご要望も聞きながら、受け入れ団体と丁寧に調整し、ボランティアコーディネートを行いました。

〈事業の目的〉

次世代を担う若年世代（小・中・高・大学生）を対象に、ボランティア活動を始めるきっかけや機会を提供し、ライフサイクルを通じた公益力を育成することを目的とする。

〈事業体系〉

- 6-1. はじめてのボランティア教室
- 6-2. 学生ボランティアミーティング
- 6-3. 職場体験・インターンの受入れ
- 6-4. 寄付ボックスの設置

〈事業総括〉

様々なプログラムを通して、幅広い年代の方々にボランティア・NPOへの関心を高め、市民公益活動の促進を図ることが出来ました。「はじめてのボランティア教室」では、ボランティアを身近に感じてもらえるような講座を開催し、多くの学生の「ハジメのイッポ」への参加につながりました。「学生ボランティアミーティング」では、学生にとって身近な社会課題をテーマに議論を行いました。社会人の参加もあり、様々な視点から活発な議論が行われました。学生同士の繋がりもうまれています。「職場体験・インターンの受入れ」では、職員や市民局、団体へのインタビューの機会を用意し、市民・行政・企業それぞれの立場の方との交流が充実したインターンシップとなりました。ボランティア体験やイベント参加を通して同世代との交流ができ、学生の市民公益活動への意識が高まったようです。「寄付ボックスの設置」では、寄付ボックスを通して寄付に対する意識啓発を図り、身近にできる社会貢献活動のひとつとして来館した方々に参加を促しました。

〈目的〉

小、中、高校生、大学生を対象に、ボランティアの基礎的な知識はもちろん、ボランティア活動をはじめたり、受入れたりする際の心構えやその意義を学ぶことを目的とする。

〈実施状況〉

●講座の内容

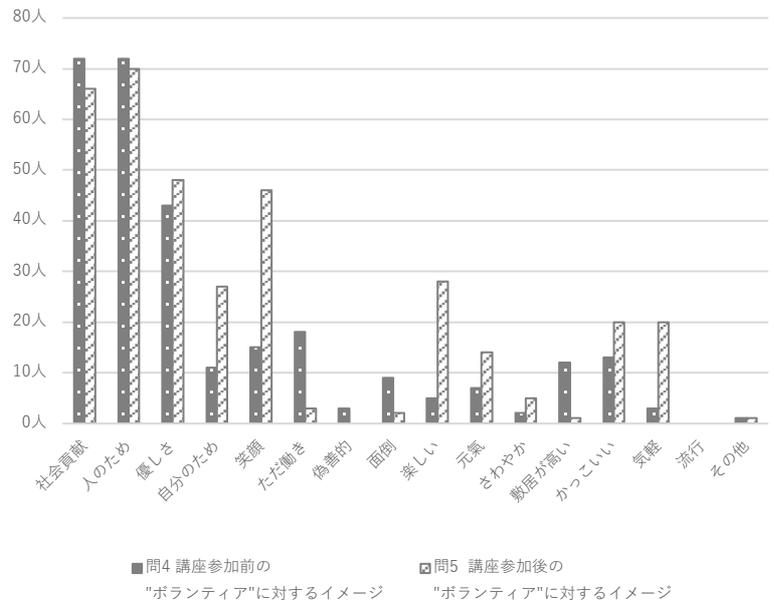
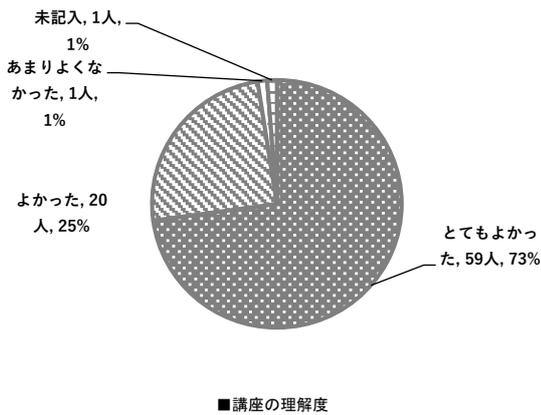
- ・対象：学生（小・中・高校生・専門学校及び大学生）
- ・実施回数：1回（目標実施回数：4回）
- ・参加者数：83名
- ・アンケート回収83票
- ・理解度：とても理解できた、概ね理解できた81票（99%）



■はじめてのボランティア教室の様子

【福岡市医師会看護専門学校】

- ・実施日：6/1（火）15時10分～16時40分（参加者：83名）



■ボランティアのイメージの変化

〈事業総括〉

夏休みのボランティア体験活動に先立ち、ボランティアの理解を深めるために講座を受講させたいとの依頼がありました。講座内容はボランティアの4原則を中心に、ボランティアを身近な活動に感じてもらえるように様々な活動事例を盛り込みました。アンケートでは、「何か今、自分にできることがあるかもしれないと思った」「気軽な気持ちで自発的にやってみようと思った」等の前向きな声が多くありました。ボランティアのイメージについても、受講後には「笑顔」「楽しい」「気軽」等のポジティブなイメージが増え、ボランティアに対する印象が良くなったようです。「今後ボランティアに参加していきたい」「ボランティアを支援するセンターを活用してみたい」等、あすみんの利用への意欲の向上がみられました。

〈目的〉

NPO・ボランティア活動に取り組む学生が、普段関わることのない他大学の NPO に会い、交流することを通して、参加者が活動のモチベーションを高めたり、参加者同士のネットワークを広げたりする機会を提供する。

〈実施状況〉

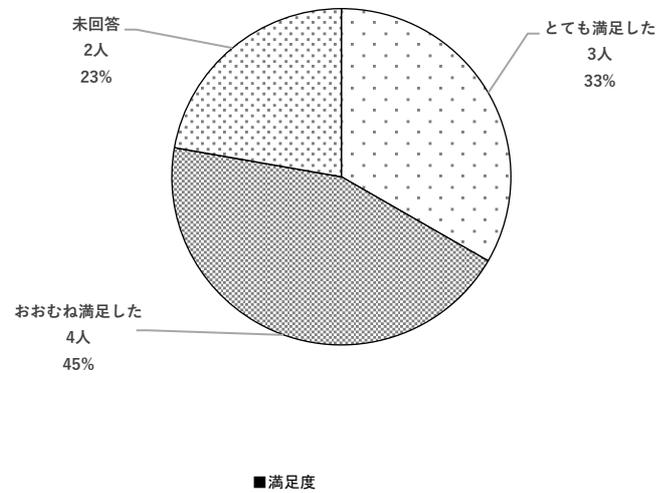
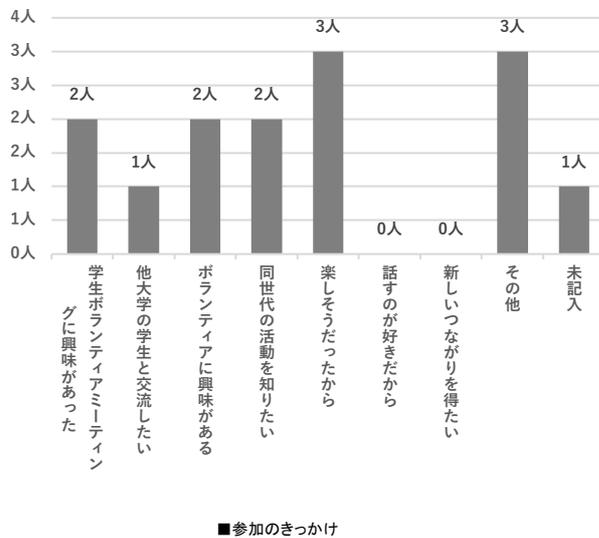
●ミーティングの内容

- ・対象：大学生、専門学生
- ・場所：セミナールーム
- ・実施回数：1回
- ・参加者数：10名（目標参加者数：24名）
- ・アンケート回収：9票
- ・満足度：とてもよかった、よかった7票（77%）
- ・実施日：3/5（土）15時30分～17時30分
- ・プログラム

自己紹介、アイスブレイク

ワークショップ ～学校制服検討委員会～

フリー交流



〈成果〉

ワークショップでは、「学校の制服」にまつわる社会課題をテーマに、議論を行いました。今回は学生だけに限定せずに募集をし、社会人の方も2名参加されました。お互いに新しい刺激をうけ、アンケートの結果にも、「若い人と交流ができて良かった」との意見をいただきました。また、ワークショップが終わった後も、参加者自ら議論の続きをはじめると、学生たちの積極性を感じることができました。今回のボランティアミーティングをきっかけにつながりができたと答えた学生がおり、後日同じ「ハジメのイッポ」の同じプログラムと一緒に申し込みに来られる学生もおり、交流から次のアクションに繋がるものとなりました。

C	6-3 職場体験・インターンの受入れ	6:ライフサイクルを通じた公益力の育成
---	--------------------	---------------------

〈目的〉

職場体験を通して、次世代を担う若年層に「あすみん」の役割や市民公益活動の意義を伝える。また NPO やボランティアについての理解を深める機会を提供する。

〈実施状況〉

● 詳細

- ・実施回数：2回
- ・受入件数：3件
- ・参加者数：5名

● 内容

- ・あすみんについて
- ・NPO・ボランティアについて
- ・窓口業務体験、接遇・相談対応研修
- ・ボランティア体験（あすみんボランティア、清掃活動）
- ・市役所・株式会社ミカサ訪問
- ・職員インタビュー
- ・団体インタビュー
- ・情報発信業務体験
- ・NPO基盤強化講座（2月のみ）
- ・社会課題を考えるワーク
（2月：社会課題カルタ 3月：学生ボランティアミーティング）

【九州産業大学】

- ・8月（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
- ・2/2（水）～2/8（火）（参加者：2名）
- ・3/1（火）～3/11（金）（参加者：2名）

【九州インターンシップ推進協議会】

- ・8月 中止
- ・3/1（火）～3/11（金）（参加者：1名）

【福岡大学】

- ・8月（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

【職場体験（中学校）】

- ・実施なし



■ボランティア体験



■ボランティア情報記事を作成

〈成果〉

8月には九州インターンシップ協議会から5名、福岡大学から3名、九州産業大学から3名が参加予定でしたが、臨時閉館に伴い中止となりました。2・3月はまん延防止等重点措置の適用期間の開催となり、学校の意向でキャンセルとなる学生もいましたが、5名の受け入れを対面で開催することができました。市民・行政・企業それぞれの立場の方との交流が充実したインターンシップとなり、学生の市民公益活動への意識が高まりました。就職活動に向けて視野を広げる機会となったようです。

C	6-4	寄付ボックスの設置	6:ライフサイクルを通じた公益力の育成
---	-----	-----------	---------------------

〈目的〉

年齢や立場に関係なく誰でも気軽に参加できる枠組みとして、様々な支援（切手、入れ歯、歯ブラシ回収など）につながる「寄付ボックス」を設置し、寄付を身近に感じてもらえる意識啓発の機会を提供する。

〈実施状況〉

●詳細

- ・ 設置している寄付ボックスの種類：5種類
- ・ 寄付した回数：4回
- ・ 寄付物品・数量：使い捨てコンタクトレンズの空ケース 1,736 g
 - ： 使用済み切手 約 961 g
 - ： 未使用はがき 92 枚



■ 設置している寄付ボックス

(1) 4/28 (水)

寄付先：コンタクトのアイシティ福岡天神パルコ店
数量：使い捨てコンタクトレンズの空ケース 875 g



■コンタクトのアイシティ福岡天神パルコ店にて

(2) 5/11 (火)

寄付先：認定NPO法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会
数量：使用済み切手 約 770 g

(3) 2/15 (火)

寄付先：コンタクトのアイシティ福岡天神パルコ店
数量：使い捨てコンタクトレンズの空ケース 861 g

(4) 3/17 (木)

寄付先：認定NPO法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会
数量：未使用はがき 92 枚
(62 円はがき 4 枚・50 円はがき 42 枚・52 円はがき 46 枚)
使用済み切手 約 191 g



〈成果〉

寄付ボックスで回収した物品のうち、使い捨てコンタクトレンズの空ケースをアイシティ福岡天神パルコ店へ、使用済み切手、未使用はがきを認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会へ寄付しました。また館内での案内だけでなく、12月の寄付月間に合わせ SNS でも寄付ボックスの周知を行いました。寄付ボックスの設置を通して寄付に対する意識啓発を図り、身近にできる社会貢献活動のひとつとして来館した方々に参加を促しました。

〈事業の目的〉

NPO・ボランティアの活動に関する市民意識や社会状況を理解し、さらなる事業促進へと繋げるため、様々なテーマ設定をもとにした調査・研究を実施します。研究の成果は、次年度以降の事業プログラムに活かし、市民公益活動の裾野を広げるバックデータとして活用します。また、「あすみん」が、福岡市内のNPO関連の情報や実践者が集まる拠点施設であることを活かし、NPOに関する調査研究のフィールドとして、様々な展開を企画します。

〈事業体系〉

■7-1. 「市民活動を対象とした助成金」に関する調査研究

C	7-1	「市民活動を対象とした助成金」に関する調査研究	7:市民公益活動に関する調査及び研究
---	-----	-------------------------	--------------------

〈目的〉

全国の市民活動を対象とした助成金の現況や動向を調査し、各団体に向けた活用方法のアドバイスや情報提供方法のブラッシュアップにつなげる（2カ年での完成、初年度は調査）

〈実施状況〉

- 助成金情報のリスト化・カテゴリー分け
- 過去2年の相談から助成金に関わるものをリスト化
- 利用者の助成金申請への妨げとなるハードルの仮説生成

〈事業総括〉

平常時から情報収集・提供してきた助成金情報について活動分野・金額などの分類をおこない助成金の動向を調査しました。

過去2年間の一般相談より「助成金」をキーワードに相談を抽出しました。利用者の助成金に関するニーズや申請に関わるハードルがどのような点にあるかを振り返り、仮説生成を行いました。

2年目は助成金の、センターからの情報提供の在り方について調査・検証をします。

〈事業の目的〉

この事業は、新たに発生している地域課題の解決や NPO・ボランティア団体等からの提案に柔軟に対応し、市民公益活動を推進する。

〈事業体系〉

- 8-1. あすみんミュージアム
- 8-2. ソーシャルショップ
- 8-3. あすみんオーダー講座
- 8-4. 出張相談
- 8-5. 自動販売機の設置

〈事業総括〉

自主事業においても新型コロナウイルスの影響を受けた部分がありましたが、あすみんミュージアムは年間を通して、館内をにぎやかに彩り、活気をもたらしました。活動展示を主催団体自らが積極的に広報する姿が見受けられ、ミュージアムをみるためにあすみに来館する方も多く、新たな利用者とのタッチポイントとなりました。

また、今年度新たに取り組んだ事業である「ソーシャルショップ」については、販売まで至ることはできませんでしたが、グッドアクティビティフェスティバルの機会を通じて試験運用し、多くの方に身近にはじめられる社会にいいことを提案することができ、反響も大きかったです。引き続き、福岡市と協議を重ねていきます。

一方で「あすみんオーダー講座」は幾度か日程の調整を繰り返しましたが、実現は適いませんでした。「自動販売機の設置」も、利用者数の減少は売上本数に影響を受け、寄付額アップとはなりませんでした。

C	8-1	あすみんミュージアム	8:自主事業
---	-----	------------	--------

〈目的〉

施設内の壁面を利用して、市民公益活動の中で制作された作品等の展示を行うことで、団体広報のサポートを行うと共に、施設を利用する市民に対し新たな関心や気づきを創出する。

〈実施状況〉

●概要

・実施回数：10回／来場者数：1,710人

	期間	団体名	人数
4月	4月8日(木) ～4月27日(火)	特定非営利活動法人 3Knots-スリーノット- (登録番号 0380)	150名
	4月20日(火) ～4月30日(金)	警固公園フラワーメイト	
7月	7月4日(日) ～7月31日(土)	あいちゃん笑店(登録番号 0331) 7月22日(木)：「はらぺこあおむし」の折り紙体験	374名
	7月8日(木) ～7月15日(木)	ハートフルネット福岡(Fukuoka)(登録番号 0163)	
10月	10月1日(金) ～10月21日(木)	五行歌創作集団わたぬき・ワールド	122名
11月	11月1日(月) ～11月21日(日)	福岡友の会(登録番号 0556)	414名
12月	12月1日(水) ～12月23日(木)	特定非営利活動法人 シニアネット福岡(登録番号 0027) 期間中随時：Wordでお絵描き体験ワークショップ	229名
1月	1月30日(日) ～1月31日(月)	地球クラブ	11名
2月	2月1日(火) ～2月20日(日)	地球クラブ	140名
3月	3月13日(日) ～3月31日(木)	A. P. C福岡(登録番号 0539)	270名



〈成果〉

臨時閉館を行っていた月を除き、毎月団体の活動作品の展示をすることができました。来館時に他団体の展示を観て自団体の活動発表の場に利用できることを知った団体や、チラシを知人からもらい応募いただいた団体もありました。展示に開催を団体自身のFacebook等で知り、初めてあすみんへ来館された方もいました。市民の方への周知と初めてあすみんへ足を運ぶ機会の創出にもつながりました。

C	8-2	ソーシャルショップ	8:自主事業
---	-----	-----------	--------

〈目的〉

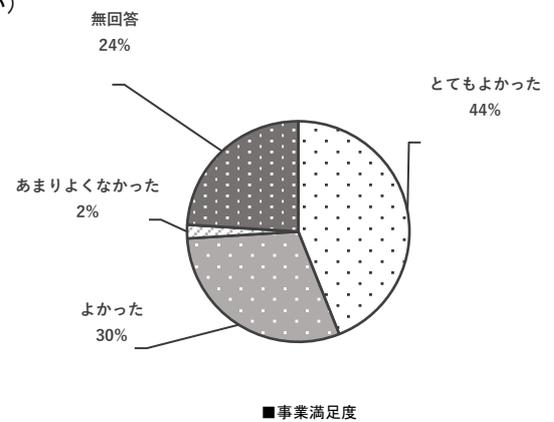
活動を通じて作られた作品や販売商品、またフェアトレードや先進的なNPO活動によって生まれたアイデアを紹介し、その関連グッズ等を展示・販売する。

〈実施状況〉

- 実施回数：1回
- 開催場所：ミーティングコーナー
- サステナブル認証商品や地域支援商品の展示と販売（一部）

- 展示数：25団体（食品、装飾品、衣類、書籍、日用品）
 - ・協力団体数：13団体
 - うち展示販売団体数：2団体
 - （NPO法人花の花・特定非営利活動法人エコネットふくおか）
 - ・その他サステナブル関連の紹介：12点

- アンケート回収：50票
 - ・とてもよかった・よかった 37票（74%）



〈成果〉

サステナブル認証の商品や市民活動団体による製作物を中心に、全国から収集して展示し、グッドアクティビティフェスティバル2021のプログラムとして試験的に実施しました。

展示を通じてNPO団体の活動や製品、またはサステナブル商品に興味・関心が沸き、購入や使用が社会貢献につながることを伝える機会になりました。「ぜひ購入したい」「あすみんで販売してほしい」という声をいただき、これらの商品へのニーズが高いことがわかりました。全国の様々な団体・企業にアプローチし、新規開拓・関係ネットワーク形成につながりました。

C	8-3	あすみんオーダー講座	8:自主事業
---	-----	------------	--------

〈目的〉

団体や企業が希望する内容にカスタマイズした講座などを実施すること。

〈実施概要〉

- 主催団体：八女市働く女性の家
- 講座内容：「ボランティアとは」～ボランティアの意義とボランティアで心がける事とは～
- 講座の対象：八女市働く女性の家利用者友の会 会員 25名
- 実施場所：八女市働く女性の家・立花公民館 大会議室

〈成果〉

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

C	8-4	出張講座	8:自主事業
---	-----	------	--------

〈目的〉

団体活動の現場に伺い、対話しながら直接的な実践方法などをアドバイスし、行政とも協議しながら「あすみん」のサービスとして実装できるかを検討する。

〈実施状況〉

(実施なし)

C	8-5	自動販売機の設置	8:自主事業
---	-----	----------	--------

〈目的〉

利用者へのサービス向上を図るほか、収益の一部を「あすみん夢ファンド」に寄付することによって、市民公益活動への取り組みを促進する。また、寄付額の報告を掲示するなど、利用者に取り組みのPRを行う。

〈実施状況〉

●設置期間

- ・2021年4月1日（金）～2022年3月31日（木）

●設置業者

- ・株式会社ジャパンビバレッジホールディングス（～2021年12月分）
- ・サントリービバレッジソリューション株式会社（2022年1月分～）

●寄付総額：62,340円

月	売上本数（本）	寄付額（円）
4月	370	7,400
5月	—	—
6月	135	2,700
7月	370	7,400
8月	232	4,640
9月	84	1,680
10月	301	6,020
11月	311	6,220
12月	405	8,100
1月	240	4,800
2月	284	5,680
3月	385	7,700
計	3,117	¥62,340

■月別の寄付額



■寄付つき自動販売機画像



■寄付金額のお知らせ

〈成果〉

気候に合わせた商品をラインナップすることで、利用者に快適に過ごしていただけるように心がけました。また、品切れや釣銭切れのないように、館内巡回時注意・確認しました。

自販機で飲み物を購入することが寄付につながる仕組みを分かりやすくするため、「あすみん夢ファンド」のPRをかねて、毎月の寄付金額を自販機への掲示とSNSでの掲載などにより取り組みを紹介しました。